

麗澤・地域連携実習  
2018年度成果報告書

## ～麗澤・地域連携実習の目的～

麗澤・地域連携実習は、PBL (Project-Based Learning: プロジェクト遂行型学習 または Problem-Based Learning: 問題解決型学習) を全学的に推進するために 2017 年度より始めた取り組みである。PBL 型の学びを 1 年生のうちに体験し、その後の学生自らの発案による PBL につなげて行くことを狙ったものである。また、参加者が取り組む課題は、柏市から提示された行政が現実として直面している問題であり、その調査や課題解決のために参加者が行う提案の評価を柏市と大学が連携して行う点に特徴がある。2018 年度からは柏市内の企業、ならびに茨城県境町とも連携を開始した。

大学教育の社会的役割が強く問われる時代となって重要視されているのが、自ら問題を発見し、どうすればよいかを考え実践する人材の育成である。日本のように経済的にも文化的にも成熟した社会において、今以上の豊かさや便利さを獲得するには、技術的な面に留まらない広い意味でのイノベーションが必要なためである。そうした人材育成のためには、答えの無い問題について学生自らが考え試行錯誤する機会が必要であり、従来の知識伝達型の教育とは異なるアプローチが必要とされている。

その 1 つが PBL であり、プロジェクト遂行や問題解決に学生が自ら主体的に取り組むことを通じて、問題発見能力や問題解決能力を育むことを目的としたものである。本学でこれまでに行ってきた PBL 的な取り組みは、その実施形態から大きく 3 つに分類される。まず、授業として行われるが、学生が自ら問題設定をし、その内容を考えて担当教員の依頼までを行う自主企画ゼミ、次に授業として行われることは同様であるが、その内容や体制はある程度担当教員がコーディネートする企業・社会実習のような科目、そして授業とは関係がない取り組みであるが、必要に応じて教員が学生のサポートをしたり、大学が費用面での補助をしたりする模擬国連のような取り組みである。

自主企画ゼミのように、学生が自らプロジェクトや問題を設定し、施設や制度、教職員と言った大学のリソースの活用を考え、成果を得るまで能動的に取り組んだ PBL は、本当に学生の成長につながる。成長を一言で表現するのは難しいが、目を社会に向け、自分が活躍できる場や貢献できる問題を探し、どうすればよいかを自分で考えて行動できるようになるのである。そうしてまた次の成功体験を獲得し、社会的存在としての自分に自信を深めて社会に出て行くことができる。

しかし、そうした PBL を自らの発意に基づいて実践できる学生は残念ながら多くはない。大学入学までの通常の学校教育を想定すると、自ら問題設定をしたり、その解決のために学生の方から大学のリソースを使うことを考えたりすることは、あまり簡単なことではないと思われる。授業も学校設備も各種教務サービスも、これまで与えられるものであったわけだから、大学生になったからと言って「さあ、これからは自分で考えましょう」と言われても、多くの学生は戸惑うだけであろう。必要なのは、教職員も大学の設備も望めば自らの意思で活用することができ、自分が取り組みたいプロジェクトや問題解決のための協力が得られることを実感し、自ら発意する PBL につなげていくための機会である。

以上のような問題意識から、麗澤・地域連携実習は 2017 年度より学部問わず全ての 1 年生に対して、1 学期から夏休みにかけて PBL を体験する授業として実施された。PBL 的な取り組みを体験して小さくてもよいから成功体験を獲得し、その後の能動的な取り組みにつなげて行くことを主眼とするものである。体験であるから、問題設定や協力が得られる教職員などの大学のリソースといった、PBL に取り組む際のハードルとなる部分はぐっと下げて、大学側がお膳立てをする。この体験を通じて、やることやそのための準備など PBL の全体像を把握するとともに、どの教職員がどういった問題に対応可能か、どういった施設や設備が活用できるかを知ることで、自分が発意する場合の PBL をイメージしやすくすることを狙っている。

また、本プログラムの特徴は、行政や企業が現実として直面する問題を取り上げ、その調査や学生の提案の評価を大学と受け入れ先の市町や企業が連携して行う点にある。ヒアリング調査に行くためのアポイントメント取りなどは学生自身がやらなくてはならないし、提案をプレゼンテーションして評価やコメントをしてもらうのも受け入れ先である。もちろん担当教員は、学生が考える調査からプレゼンテーションに至る計画や作業項目について指導は行うとともに、トラブル発生やミスを犯した場合のフォローは行うが、実際に学生が成果を得るために働きかける相手は受け入れ先である。高校を卒業したばかりの 1 年生にとって、学外の方の協力を取り付けることは初めての体験である場合が多く、容易ではないことが予想されるが、それが出来るということを大学生活の早い段階で経験しておくことは重要である。大学における学びは、社会に目を向けて、自分がそこでいかに生きて行くかを想定し、自らがコーディネートしなければならないからである。

2018 年度は柏市から 26、境町と柏市内企業 3 社からそれぞれ 1 つの課題をご提示いただき、約 2 週間かけて各課題のオリエンテーションを行って履修者の募集を行った。これに対して 62 名の履修希望があり、グループワークが可能なように課題への割り振りを行った結果、目次に掲げる 10 の課題への取り組みが行われた。本成果報告書は、各課題に取り組んだ学生が、そのプロセスと成果について課題ごとにまとめたものである。

本授業は柏市・境町・柏市内企業 3 社の多大なご協力があつて、はじめて実現可能となった。多忙な職務の合間をぬって、学生の調査や提案の評価などにご尽力いただいたことは、実に得難いことであつた。こうした献身的な取り組みがあつてこそ、地域と大学とが連携して人材育成に取り組むことを実践することができた。また、柏市企画調整課には、柏市の多様な部局と大学との窓口を一手にお引き受けいただき、各部局との調整などに多大な労力を割いていただいた。末筆ながら、ここに感謝の意を表したい。

2019 年 3 月

麗澤大学 地域連携センター長  
籠 義樹

## 目次

振り込め詐欺の被害防止..... - 7 -

担当部局： 柏市防災安全課  
履修者： 経済専攻 笹原 清楽  
経済専攻 高宮 悠樹斗  
スポーツビジネス専攻 廣田 海心  
担当教員： 竹内 啓二（経済学部）  
担当職員： 丸 優泰（教務グループ）

ガバメントクラウドファンディング ～ふるさと納税とまちのPR～ ..... - 14 -

担当部局： 柏市企画調整課  
履修者： 英語・リベラルアーツ専攻 伊藤 駿志  
経済専攻 西田 匡辰  
経済専攻 松尾 光大  
会計ファイナンス専攻 谷垣 友彩  
会計ファイナンス専攻 延 明香  
担当教員： 内尾 太一（外国語学部）  
担当職員： 砂川 亜里沙（地域連携センター）  
石塚 高秋（同上）

国際交流の活発化 ..... - 22 -

担当部局： 柏市協働推進課  
履修者： 英語・リベラルアーツ専攻 生津 佑子  
国際交流・国際協力専攻 須藤 大介  
国際交流・国際協力専攻 吉原 美優  
グローバル人材育成専攻 島村 海地  
担当教員： 松島 正明（外国語学部）  
黒須 里美（外国語学部）  
担当職員： 高須 泰輔（学生支援グループ）

ホームタウンチームを活用したまちの魅力発信..... - 40 -

担当部局： 柏市秘書課  
履修者： 経済専攻 溝口 智仁  
グローバル人材育成専攻 黒川 大輔  
スポーツビジネス専攻 浦邊 泰一  
スポーツビジネス専攻 南 昂佑  
担当教員： 吉田 健一郎（経済学部）  
担当職員： 松野大祐（入試広報グループ）

学生の子ども・子育て支援事業計画への参画の検討..... - 45 -

担当部局： 柏市子育て支援課  
履修者： 経済専攻 田中 花音  
会計ファイナンス専攻 辛 雨珊  
担当教員： 大野 正英（経済学部）  
担当職員： 川原 花野（入試広報グループ）

柏の葉キャンパス地区を賑やかにする施設づくり..... - 50 -

担当部局： 柏市北部整備課  
履修者： 英語・リベラルアーツ専攻 松本 千穂  
経営専攻 山下 彩香  
担当教員： 佐藤 仁志（経済学部）  
担当職員： 砂川 亜里沙（地域連携センター）  
石塚 高秋（同上）

イオンモール柏 Aクラス..... - 55 -

担当部局： イオンモール株式会社 イオンモール柏  
履修者： 英語コミュニケーション専攻 越智 なつみ  
英語コミュニケーション専攻 児玉 星子  
経済専攻 池田 光聖  
経済専攻 齋藤 航平  
経済専攻 高橋 由伸  
経営専攻 袁 サイ晨  
経営専攻 孫 秋怡  
担当教員： 下田 健人（経済学部）  
篠藤 涼子（経済学部）  
担当職員： 川瀬 達也（入試広報グループ）

イオンモール柏 Bクラス ..... - 63 -

担当部局： イオンモール株式会社 イオンモール柏  
 履修者： 経営専攻 秋山 瑞葵  
 経営専攻 岩崎 咲良  
 経営専攻 京須 百香  
 経営専攻 五味 陽介  
 経営専攻 古森 奈津子  
 経営専攻 塚原 勇太  
 経営専攻 角田 晴哉  
 経営専攻 橋本 容行  
 経営専攻 山本 未来  
 担当教員： 近藤 明人（経済学部）  
 担当職員： 川瀬 達也（入試広報グループ）

Honda Cars 柏 ～大学生に車を購入してもらうには～ ..... - 69 -

担当部局： 株式会社ホンダカーズ柏 柏の葉店  
 履修者： 経済専攻 岡田 龍輝  
 経済専攻 金澤 拓未  
 経済専攻 鬼澤 翔真  
 経済専攻 木村 一輝  
 経済専攻 吉田 真  
 経営専攻 石倉 響輝  
 会計ファイナンス専攻 吉田 圭佑  
 担当教員： 大越 利之（経済学部）  
 担当職員： 丸 優泰（教務グループ）

株式会社川和 ..... - 77 -

履修者： 英語コミュニケーション専攻 小貫 航太  
 英語コミュニケーション専攻 木内 理沙  
 英語コミュニケーション専攻 國中 大晟  
 英語コミュニケーション専攻 小山 翼  
 英語コミュニケーション専攻 庄島 花穂子  
 英語コミュニケーション専攻 増田 穂乃香  
 英語・リベラルアーツ専攻 大塚 悠真  
 担当教員 籠 義樹（経済学部）  
 担当職員： 山下 哲也（キャリア支援グループ）

担当部局： 境町まちづくり推進課  
履修者： 英語コミュニケーション専攻 増田翔  
英語・リベラルアーツ専攻 新井 彩乃  
英語・リベラルアーツ専攻 小林庄太  
中国語専攻 高本望愛  
担当教員： 徳永 澄憲（経済学部）  
担当職員： 砂川 亜里沙（地域連携センター）  
石塚 高秋 （同上）

# 振り込め詐欺の被害防止

担当部局：柏市防災安全課

経済学部経済学科

経済専攻

笹原 清楽

経済専攻

高宮 悠樹斗

経済学部経営学科

スポーツビジネス専攻

廣田 海心

担当教員 竹内 啓二（経済学部）

担当職員 丸 優泰（教務グループ）



## 1. プロセス

日程	取り組んだこと
6月7日	全体講義①
6月12日	全体講義②
6月19日	全体講義③
6月26日	振り込め詐欺のテーマ決め
7月3日	振り込め詐欺の具体的な目標決め
7月10日	市役所の方に質問する内容決め
7月17日	市役所に訪問し、職員の方々とヒアリング調査を行った。
8月3日	ヒアリングで得た内容をもとに、他の市との違い、私達にできることは何かを話し合った。
8月9日	中原防災公園でのヒアリングに向けて、アンケート調査の内容を話し合った。
8月15日	ヒアリングに向けてのアンケートの見直しと、資料作成。
8月29日	中原防災公園でのヒアリング調査を行った。
9月5日	中原防災公園でのヒアリング調査結果をもとに、市役所で発表する資料作成。
9月7日	市役所でのプレゼンテーション
9月12日	市役所の方からのアドバイスをもとに、ヒアリング調査の資料の見直し。
9月15日	作り直した資料をもとに中原防災公園でのヒアリング調査を再度行った。
9月16日	中原防災公園でのヒアリング調査を行った。
9月17日	全体報告会での資料作成。
9月18日	全体報告会

## 2. テーマの概要

私達は「振り込め詐欺被害防止」というテーマで集まりました。平成29年度千葉県内市町村別発生状況によると、柏市は5位と上位であることが調べていくうちにわかり、何故柏市は振り込め詐欺の被害件数が多いのか、発生件数の少ない市との違いは何か、また私達学生に出来る事はあるのかを考えました。

## 3. 市役所の方とのヒアリング調査で分かったこと

・何故柏市は振り込め詐欺の被害件数が多いのか

→千葉県の北西部における被害の集中、東京（犯人グループのアジト集中地区）から柏市は近いため発生件数が多い。また、交通の便が良いため。

- ・男性よりも女性の方が被害に遭いやすい。
  - ・近所付き合いが濃密であっても被害に遭う。
  - ・振り込め詐欺の具体的な対策
- 振り込め詐欺等対策電話機等購入補助金交付事業。
- ・柏市が振り込め詐欺の対策として行っていること
- 柏第七小学校児童による音声、柏中央高等学校放送部による音声、消費者センター、消費者団体との連携、柏メール配信サービス。

#### 4. 私達の提案

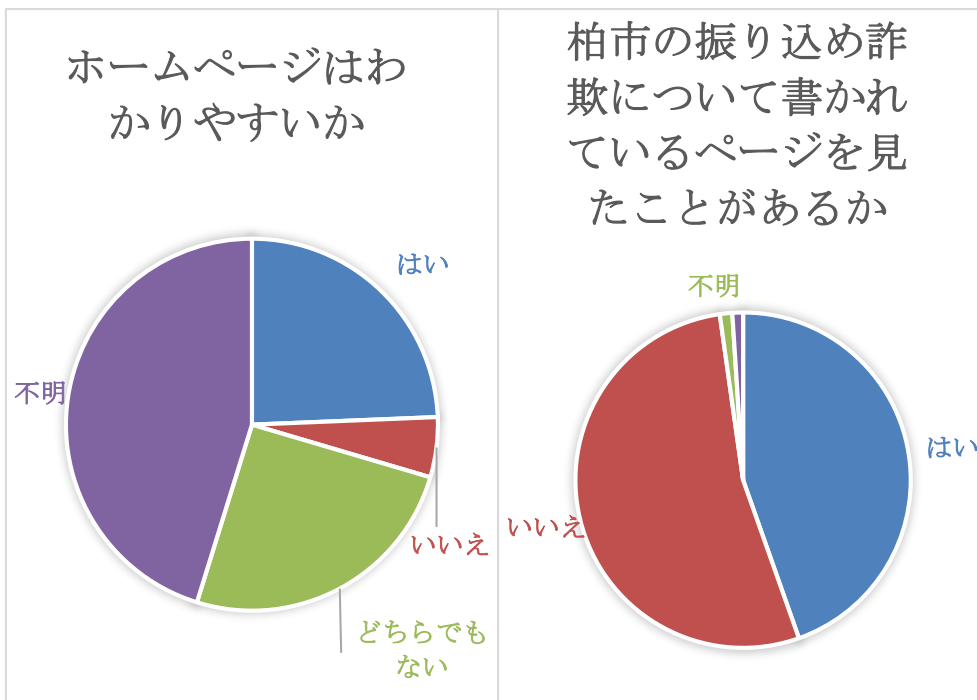
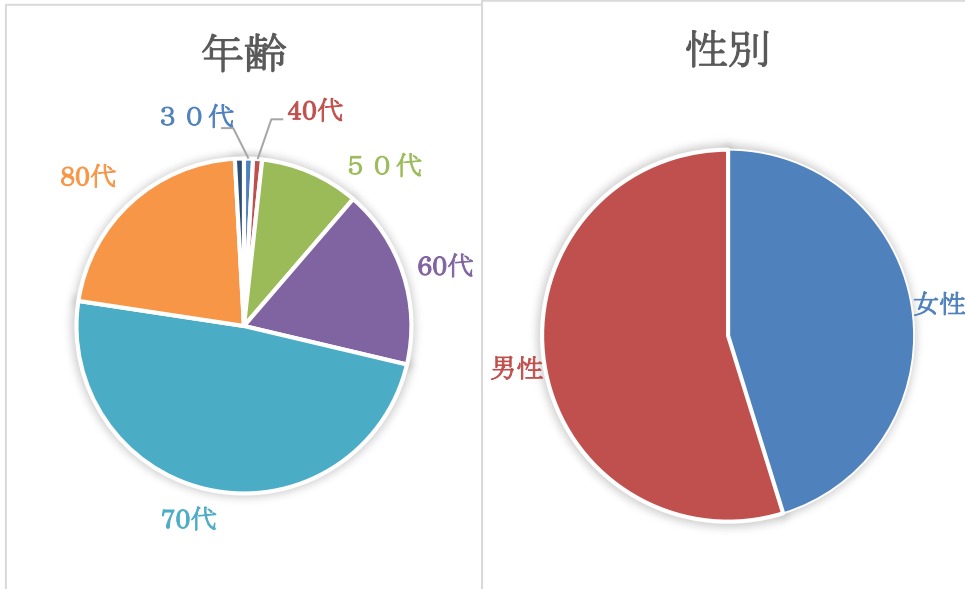
- ・振り込め詐欺の状況や、手口などのお知らせが来る柏メール配信サービスを市民に登録してもらう。
- ・千葉県警察が公開している、振り込め詐欺の犯人が実際に電話で被害に遭われた方に電話している実際の音声「電話 de 詐欺」をホームページにリンクする。
- ・柏市のホームページは他の市よりも細かく書かれていると感じた、実際市民にどれくらい振り込め詐欺に関しての情報が伝わっているのかを調査することにした。

学生ができることとして、地域の学生に協力を仰ぎ、寸劇を町内会などで披露。

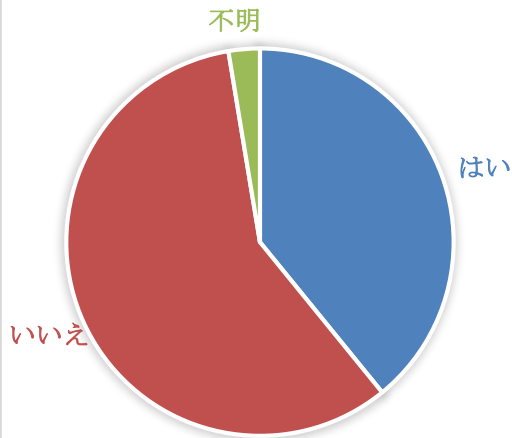
#### 5. 中原防災公園でのヒアリング調査

8月29日、9月15日、16日に中原防災公園でラジオ体操や健康体操、犬の散歩をしている方々にヒアリング調査を行った。8月29日にヒアリング調査を行った結果をもとに、さらに調査するため、9月15日、16日はテーマを細かく絞り、ヒアリング調査を行った。

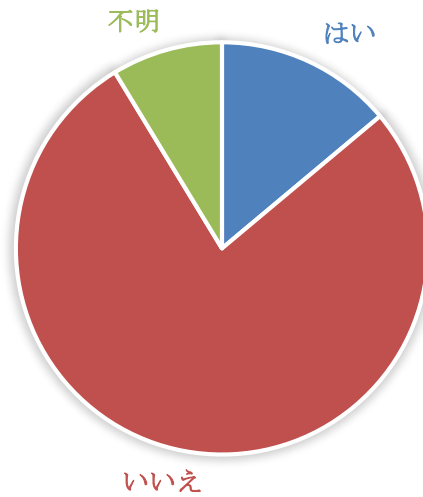




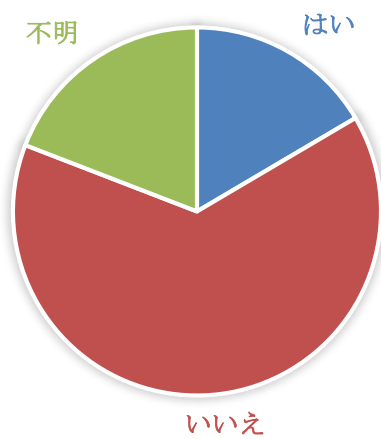
柏市が行っている  
メール配信サービス  
を知っているか



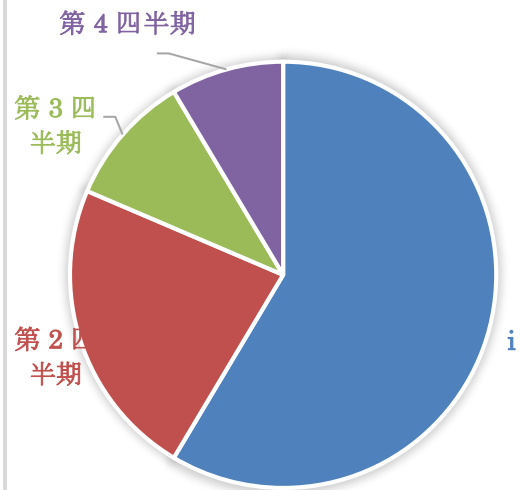
柏メール配信サービ  
スを登録しているか



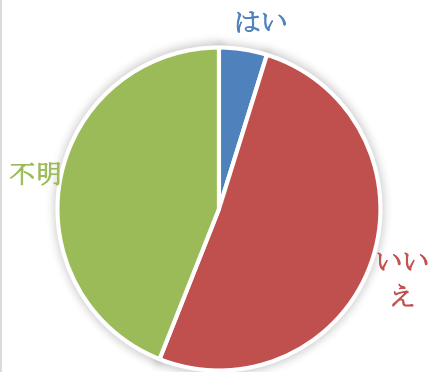
千葉県警察が公開している  
振り込め詐欺電話の実際の  
犯人の音声聞いたことが  
あるか



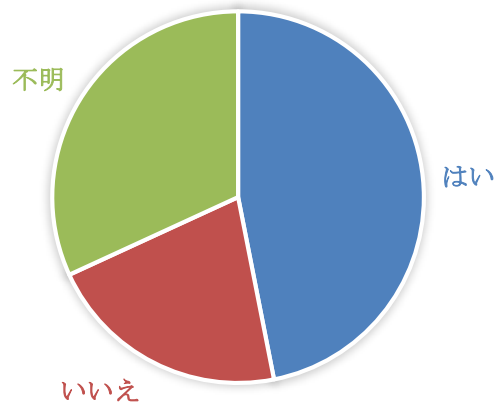
振り込め詐欺対策の講演会に  
いったことがあるか



柏メール配信サービスに登録しているにもかかわらず振り込め詐欺の被害に遭った人が周りにいるか



振り込め詐欺の電話がかかってきた人が周りにいるか



## 6. 市役所の方々からのフィードバック

- ・パワーポイントの資料がわかりにくいと意見を頂いた。
- ・学生による寸劇は新しい意見なので是非とも取り入れたいとおっしゃっていた。
- ・千葉県警察が公開している電話 de 詐欺のホームページとのリンクも考えてくださるとおっしゃっていた。
- ・学生によるポスターなども案に今後入れていくといってもらった。
- ・中原防災公園でのヒアリング調査の結果をもう少し細かく知りたかったと指摘していただいた。



## 7. 感想

このようなプロジェクトは初めてで、ヒアリング、アポ取り、社会人として必要なことを学びました。自分達に何かできないか発見することができ、貴重な体験になりました。仲間と協力しあい真剣に1つのテーマに取り組むことが出来ました。

# ガバメントクラウドファンディング

～ふるさと納税とまちのPR～

担当部局：柏市企画調整課

外国語学部外国語学科

英語・リベラルアーツ専攻

伊藤 駿志

経済学部経済学科

経済専攻

西田 匡辰

経済専攻

松尾 光大

経済学部経営学科

会計ファイナンス専攻

谷垣 友彩

会計ファイナンス専攻

延 明香

担当教員 内尾 太一（外国語学部）

担当職員 砂川 亜里沙（地域連携センター）  
石塚 高秋（同上）

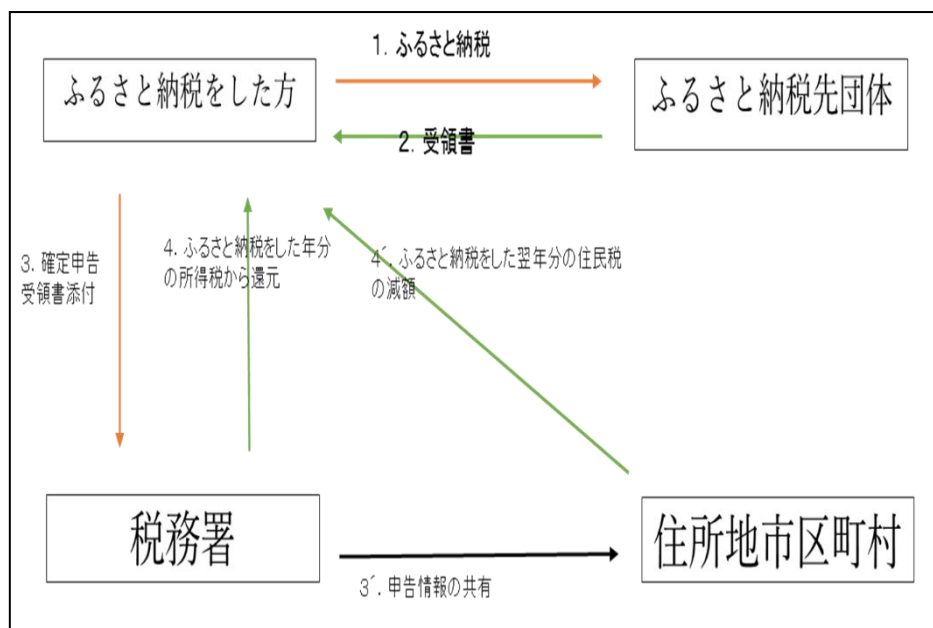
## 1. ふるさと納税の仕組み

まずふるさと納税は、「納税」とは言うが、地方自治体への寄付を通じて地域創生に参加できる制度のことである。自分の生まれ故郷だけでなく、お世話になった地域や応援した地域など、好きな自治体に寄付金を送ることができるのが特徴だ。

そして、そのお礼として、その土地のお米やお肉といった特産品などがもらえることから人気を集めている。ふるさと納税の仕組みは、それほど難しくない。

初めに寄付を地方自治体に行く。すると、ふるさと納税先団体からお礼品が届き、しばらくすると、寄付を証明する受領書（寄付金受領証明書）が送付されてくる。寄付後、「確定申告」の手続きをすると、所得税の還付や、個人住民税の控除が受けられ、実質的な自己負担額を 2000 円にすることができる。ただし、寄付者の収入等により寄付の上限額（控除上限額）が定めるといった条件はある。所得税の場合は当年分から、個人住民税の場合、翌年 6 月以降分から減額される。

ふるさと納税は、基本的に年内に何回でも行うことができる。



さとふるホームページ「初めての方へ」を元にメンバー作成

<https://www.satofull.jp/static/instruction01.php>

(2018年9月29日アクセス)

## 2. 市役所職員への聞き取り調査

2018年8月2日に、柏市役所でのインタビューを行った。事前に質問項目を送付し、当日は、企画調整課の和島様、高橋様、松下様、市民税課の上杉様にご対応頂いた。



柏市へのインタビューでは柏市のふるさと納税制度の成功とそれに対する思い、そしてシステム上起こりうるジレンマを知ることが出来た。具体的には制度実施後の利用者からの喜びの声が多数あること、あえてふるさと納税ではなくふるさと寄付としていること、そしてふるさと納税実施によるお金の流出で制度のPRがマイナスに働くことなどである。

他にも様々な情報が得られ、先のインタビューは非常に有意義だったと言える。

例えば、「学生の私たちに出来ることは」という質問に対しては、「柏市をもっと好きになって欲しい」という回答を頂いた。このやりとりが、次項の麗澤大生へのインタビュー調査へと展開していく。

また、このとき、柏市主導で行われているガバメントクラウドファンディング「手賀沼ヒマワリプロジェクト」の情報を得ることができた。そして、私たちは、8月の下旬に、その現場を見学させて頂くことになった。



柏市役所内にて（2018年8月2日引率者撮影）

### 3. 大学生へのインタビュー調査の結果

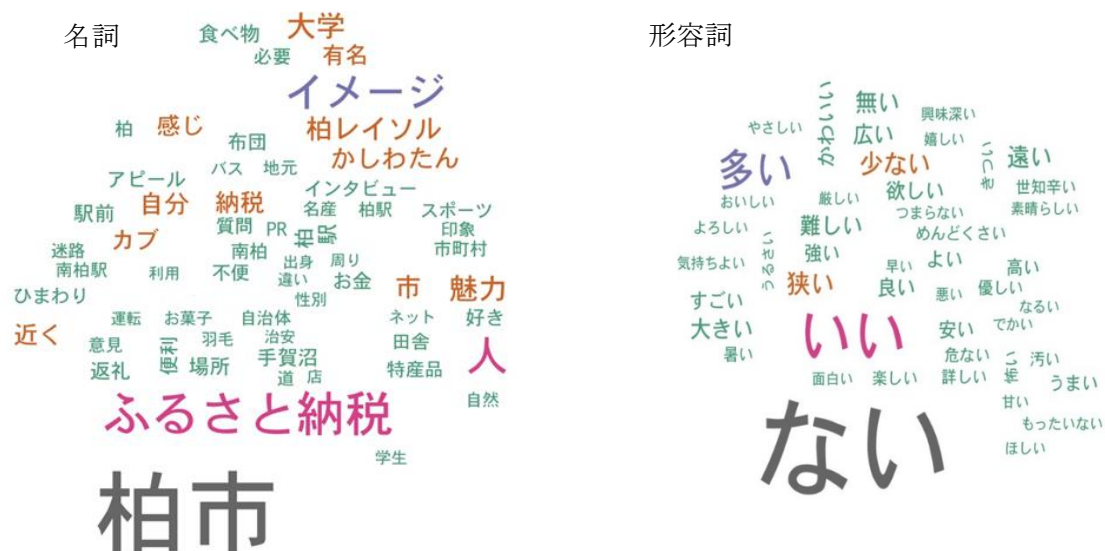
私たちは麗澤大学1年生を対象としたインタビュー調査を行った。30分の対話式インタビューで、そのテーマは「最近知った柏市の魅力&これからもっと柏市を好きになるためには」である。

質問者は経済学部1年が4名、外国語学部1年が1名（男性2名、女性3名）の5名で、回答者は、経済学部1年が3名、外国語学部1年が2名（男性3名、女性2名）である。

インタビュー中は、回答者の許可を得て、録音を行った。質問者はその音声データから全文テープ起こしを行った。「30分」という一見、短い時間だったが、それを繰り返し再生し

ながら、全てを文字にしていくのは、とても大変な作業だった。5人分のインタビューで、文字数は、20,140字となった。

そうして得られた一次資料に、担当教員の内尾先生にテキストマイニングという処理を加えてもらった結果が以下の通りである。インタビュー中に頻繁に使用された言葉を、名詞と形容詞ごとに上位75位までを検出してもらった。



私たちは、元となったデータと、この分析結果に基づいてさらに考察を進めた。

まず、柏市のイメージについて聞いたところ、柏レイソルの他に、食べ物、特に株が有名であるという答えが返ってきた。そして、柏市の良いところ、便利なところ、魅力はニュータウンと北部の方で差別化できるから田舎が好きな人はそこに住めることや、イオンモールがあること、交通が便利で都心へのアクセスは良いから住む場所としては本当に良いところである。また、つくばエクスプレスが通過していることなどが挙げられた。

次にネガティブな面を見ていく。柏市の悪いところ、不便なところをきいたところ、交通関係では、「道幅が狭い」「車の渋滞信号がない」「電車が少ない」、駅の設備については、「階段の段差がきつい」「駅のエレベーターの場所がわかりづらい」、街の環境については、「街が汚れている」「空気が汚い」「遊ぶところが少ない」「迷惑な人がいる」などが挙げられた。

また、柏市の有名なものがわからず、「イメージが湧かない」、「インパクトがない」という意見もあった。

今回のインタビューでは、ネガティブな意見が特に目立ったように思う。そして、柏市職員の方のリクエスト通り、「柏市をもっと好きになるためにはどうすればよいか」と質問したところ、道を広くしてほしいイオンモールに行くのにバスがないと遠いので駅の近くに大きいモールが欲しい柏市をもっとPRすべきだといった柏市に求める声が多く出た。

次に、インタビューの中で印象的だったコメントを紹介する。「人が利用しやすい環境づ

くりが必要だと思う」「バリアフリー化を進めてほしい」「インパクトがない」「柏レイソル、カブ、イオンモールの他に柏に印象的なものがなく、イメージが捉えづらい」。また、「特産品を使ったイベントを行ってはどうか」という提案の声もあがった。「娯楽施設が欲しい」というコメントもあったが、学生の目線から見ると柏市は遊ぶところが少ないようだ。他にも、より具体的に、「柏たん（ビックカメラ柏店の擬人化キャラクター）を推そう」という声があった。若い学生にはこのようなかわいいキャラクターが人気のようだ。



柏たん、とは。

「メガネと柏餅のような頭が特徴。大好物はもちろんモチモチの柏餅！制服のリボンに柏市の木・柏の葉っぱと、市の花・シバザクラがモチーフになっている」

ビックカメラ OFFICIAL WEB より転載・引用

<https://biccame.jp/profile/kashiwa.html>

(2018年9月29日アクセス)

#### 4. 手賀沼ひまわりプロジェクトの調査報告

次に、この実習でのフィールド調査として、「手賀沼ヒマワリプロジェクト」について報告する。ヒマワリプロジェクトとは、柏市のガバメントクラウドファンディングをおこなったプロジェクトのうちの一つである。2017年12月1日から2018年2月28日の90日間募集をおこない、手賀沼周辺の休耕地（きゅうこうち）や空き地などにヒマワリを植栽（しょくさい）し、手賀沼の魅力を知ってもらうプロジェクトとなっている。

そのホームページによると、私たちが、このプロジェクトについて知る前に、既に3度の活動が今年になって行われていた。1回目はひまわりの播種と看板作り（5月26日）、2回目は間引きと追肥とひまわりの油のラベル作り（6月23日）、3回目はひまわりの観察と撮影と巻き寿司作り（7月21日）だった。そして、私たちは今回、8月25日に実施された、4回目の種の収穫と搾油体験とドレッシング作りに、参加させて頂いた。

活動現場は、道の駅「しょうなん」の近くのひまわり畑で、参加者は午前9時に集合することになっていた。この日は、柏市市役所企画調整課の松下様にご案内を頂いた。見学のつもりで現場に向かったが、結果的に私たち麗澤大生4人も、参加者に混じって作業を手伝うことができた。

まず、ひまわりの頭の部分をとる作業を行った。実際、持ってみると大きくて重かった。そして、種の上にあるひまわりの花を手で取りながら収穫した。ひまわりの花は周りにある花卉だけではなく、種の上にあるもの、すべてがひまわりの花ということを知ることができた。

次に種をとる作業を行った。種をとるために金網を使い、こするように取っていった。





手賀沼ヒマワリプロジェクトの活動現場（2018年8月25日引率者撮影）

種の収穫が終わった後、道の駅しょうなんの一室で、家庭用搾油機を使って、ひまわりの種から油をとるところを見学した。

最後にひまわり油を使ったドレッシング作りを行った。「梨味」と人参と玉ねぎが入っている「にんたま味」と「ニンニク黒酢醤油味」の3種類の中から1つ選んで作った。お土産にそれを持ち帰ることができ、そのドレッシングで地元の野菜のサラダを食べてみると、どの味も野菜の味が引き立てられてとてもおいしかった。



ひまわりの種と自作ドレッシング（2018年8月25日メンバー・引率者撮影）

また、私たちは、参加者の方々から様々なお話を伺った。どのようにこの活動を知ったのですか、という問いに、ある人は「市の広報誌から知りました。」と答えてくれた。また、なぜ参加しようと思ったのですか、とお聞きしたところ、「元々、柏市の人ではなく移り住んだ者なので、地域の人と交流がしたかった」とのことだった。ほかには、柏市にはハスの群生地があり、そこは上から鳥の形が見えることなど、教えてくださった人もいた。

手賀沼ひまわりクラブの今後の活動については、当初は、ひまわり油の販売を行うだけの予定だったが、その前にひまわり畑のあったところに、菜の花を植える活動を行うことが決

定したそうだ。当日参加できずとも、菜の花を植えた後などをみることはできるだろう。また、ひまわり油や、ひまわり油を使ったドレッシングは、道の駅「しょうなん」で販売されている。そこへアクセスに関しては、我孫子駅南口からバスがでていいる。阪東バスの手賀の杜ニュータウン行に乗り、道の駅沼南前で下車をする。また、ひまわり畑のあった場所は、道の駅しょうなん近くのコンビニから道路を挟んだ反対側だ。数分歩けば、たどり着くことができる。活動に参加したメンバー4人の感想は、以下の通りである。

- ・ 思っていたよりも色々なことを体験させていただいたので、とても勉強になったし、何よりも個人的に都会的なイメージが強かった柏市の印象が、これがきっかけでだいぶ変わった。
- ・ 何気なく通り過ぎていた道でこんな素敵な活動をしていたなんて知らなかった。ひまわりの種の収穫を体験して体力をけっこう使って大変だなと思うところもあったがとても楽しかった。
- ・ 他の参加者の方と一緒に参加できて、ひまわりの種のことや地域の人のことなど手賀沼の魅力に触れ、とても勉強になった。
- ・ ひまわりの種から油がとれることを初めて知り、どのような工程で行うかを実際に活動しながら知ることができたことは、私達にとっても貴重な体験になったと思う。地域の情報発信の役割を担う道の駅で活動し、販売することにより、地元についての市民の理解がより深まることができると思った。

## 5. 今回の実習での学び：大学生のイメージと地域のリアル

まず、同じ大学生に対するインタビューの結果から、彼らは、柏市に都会的な印象と、PRには消極的な印象を抱いていることが見てとれる。元々の私たちのイメージも、それに似たようなものであった。

しかし、今回の実習を通じて、実際に柏市が twitter や youtube、広報番組などで積極的に広報を行ったり、ガバメントクラウドファンディングによる、ヒマワリプロジェクトなどの自然を生かしたイベントなども積極的に開いたりしていることを知った。

## 6. 今後に向けて：大学生にできることと市に期待していること

大学生にできることについては、結論から言えば、SNS での柏市の情報拡散が、一番手軽で、かつ行政からも求められていると感じた。これからも、市の公式アカウントをチェックし、自分だけでなく他の学生にも有意義だと思ふ情報は、リツイートや、シェアをしていきたい。

また、大学生の目線から、柏市に期待していることは、人々がより利用しやすい環境づくりと、PR である。特に、後者については、自分たちが柏市で学んでいることを誇りに思えるように、全国的な PR にもっと力を入れてほしい、と感じた。

## 7. 今回の実習報告に対する柏市職員の方々からのコメント

最後に、9月10日に今回の実習報告を、柏市市役所にて行った。前回のインタビュー同様、企画調整課の和島様、高橋様、松下様、市民税課の上杉様にご出席頂いた。発表後に頂いたコメントの要点は以下の通りである。

- ・ 様々な媒体を使ってPRしてきたが、中々、幅広い世代にまでは伝わらない。どうすれば伝わるかが課題である。
- ・ 改善点として道幅の狭さが多く挙げられているが、様々な問題から改善は難しい。ただし、これは柏市だけでなく、千葉県全体でみられる現状となっている。
- ・ 学生が柏市にかかわってくれたら嬉しい。



柏市役所内にて（2018年9月10日引率者撮影）

# 国際交流の活発化

担当部局：柏市協働推進課

## 外国語学部外国語学科

英語・リベラルアーツ専攻 生津 佑子

国際交流・国際協力専攻 須藤 大介

国際交流・国際協力専攻 吉原 美優

## 経済学部経済学科

グローバル人材育成専攻 島村 海地

担当教員 松島 正明（外国語学部）  
黒須 里美（外国語学部）

担当職員 高須 泰輔（学生支援グループ）

私たちは柏市の国際交流の活発化という課題のもと、柏市役所の方々と連携し、課題を解決する案を出すために活動した。活動内容は下記のとおりである。

## 1. 事前準備

活動日：6月12日・19日・27日、7月17日

この四日間で私たちは「第5次総合計画」、「地域活性化政策」などの柏市の資料を参考に、柏市の市役所に訪問する際に事前に知っておくべき情報や、ニーズ調査のための質問事項などをまとめた。

事前に調べた情報

- ・柏市で取り組んでいる政策
- ・「国際交流の活発化」の位置付け
- ・柏市在住外国人の国籍・割合などの現状
- ・柏市が直面している在住外国人対応の課題

## 2. 市役所訪問

活動日：8月7日 10:00 パレット柏にて

面談相手：柏市共同推進課 村山様 伊東様

私たちは実際に市役所を訪問し、柏市地域づくり推進部 協働推進課の村山様と伊東様のお話を伺い、今後の活動についての打ち合わせをした。そこでは事前に調べた情報の再確認も含め、柏市で取り組んでいる事業の具体的な内容、在住外国人の現状、姉妹都市・友好都市との間で行っている事業などを伺うことができた。お話の中で柏市のニーズも挙げられた。

まず、平成29年11月末調べの柏市の在住外国人の割合は1位が中国人、2位が韓国人、3位がベトナム人というデータがある。翌年の平成30年8月調べのデータでは、ベトナム人学生が急激に増加し、韓国を越え2位に上昇したというデータがある。次に柏市が行っている在住外国人支援事業に多言語メール配信事業・外国人相談窓口というものがある。多言語メール配信事業とは、生活に役立つ情報やイベント情報、地震などの緊急時には災害情報を英語・中国語・スペイン語・やさしい日本語で配信する事業である。やさしい日本語とは日本に来たばかりの外国人用の、漢字が使われておらず、簡単な文章で表された日本語である。外国人相談窓口とは、曜日ごとに対応言語を分け、市役所の手続きでわからないことや、日常の困りごとの相談を行っている事業である。対応言語は英語・中国語・スペイン語・韓国語で、実際の相談内容は日本語教室の場所、日本語で書かれた書類の説明、保険に関することなどがある。

上記の事業内容から、現在、在住外国人の割合はベトナム人が二番目に多いにも関わら



ず、支援事業ではベトナム語での対応が無いという現状が挙げられた。更に、ベトナム人の方々は現在対応している英語によるサービスだけで十分過ごせているのか、また、ベトナム語での対応を求めているかという需要も調べてほしいというニーズも加えて挙げられた。このニーズに対応するために私たちは具体的な活動内容、活動日程を決めることができた。

### 3. 日本語学校訪問

活動日：8月22日 11:00 朝日国際学院柏日本語学校にて

面談相手：ベトナム人学生10名、ベトナム人職員1名

柏市のニーズに対する調査をするために、私たちは麗澤大学に在学しているベトナム人の学生と朝日国際学院柏日本語学校に通うベトナム人の学生たちのお話を伺った。なお、朝日国際学院柏日本語学校以外に、二つの日本語学校にもニーズ調査を行うため、アポイント取りを試みたが、日程の都合が合わず、朝日国際学院柏日本語学校のみでの調査となった。調査内容と回答は下記の通りである。

#### 【質問内容と回答】

<麗澤大学の在学生>

- ・学生寮や学内の教職員、学生のサポートがあるため、不便を感じる場面はあまりない。

<朝日国際学院柏日本語学校の在学生>

- ・来日理由  
→日本語の勉強のため。(将来は日本語を活かした職業に就きたいから)
- ・柏市の良いと思うところ  
→柏駅周辺は賑やかで良い。一方で、南柏駅周辺は落ち着いていて暮らしやすい。外国人も多く感じる。
- ・サポートを必要とする箇所  
→引っ越しの手続き、ゴミの分別が難しい。アルバイト探しが円滑に進まない。
- ・市役所の多言語サービスにベトナム語があれば利用するか  
→利用したいと思うが、市役所に相談したいことよりも、就業・住宅支援などの面での言語サポートが必要だと感じている。多くのベトナム人学生は英語が話せないため、現在の対応言語では利用できない。ゴミの分別カレンダーなども現地語での対応があれば、わかりやすく、迷うことも減る。

以上の結果から、留学生は市役所の対応や普段の生活において言語面を中心に問題を抱えていることがわかった。

#### 4. 市役所訪問

活動日：8月28日 14:00 パレット柏にて

面談相手：柏市共同推進課 村山様 伊東様

朝日国際学院柏日本語学校での調査内容の報告と共に、調査内容を参考に私たちが考えたベトナム人学生の需要に答えるための方法として、イラストや絵を使うという案を提出するために市役所を訪問した。その際、上記の『サポートを必要とする箇所におけるアルバイト探し』に関しては、私たちが提案したイラストや絵だけで全てを伝えることは難しいため、もしイラストや絵を見たことが原因で誤解が生じ、労働基準法などに違反してしまった際に責任を取ることができないためという二つの理由で、アルバイト探しに対してのイラストでの対応はしないほうが良いというフィードバックをいただいた。この市役所の方々のフィードバックを参考にし、私たちは引っ越しの手続き、ゴミの分別に焦点を当て、イラストでの対応をすることにした。更に、ベトナム人学生の方々の使用頻度を考慮し、引っ越しの手続きより、ゴミの分別の方が使用頻度が高いことから、私たちはゴミの分別表を重点的にベトナム人の方々向けに作成することにした。

#### 5. 資料作成、プレゼンテーション準備

活動日：9月4日・5日

この二日間で私たちは7日に控えた市役所でのプレゼンテーションでサンプルとして使用するイラスト、PowerPointの作成をした。元々はゴミの分別表をメインとし、イラストと簡単なベトナム語で作成する予定だったが、改めて、柏市で行っているゴミの分別表の言語サービスの確認を行ったところ、英語・中国語・韓国語・スペイン語に加え、ベトナム語が新たに追加されていることに気づいた。そこで私たちはゴミの分別表にのみ重点を置くのではなく、引っ越しの手続きの案内も含めたガイドブックを作成することにした。イラストだけで要点を伝えることは難しいと判断したため、簡単な文章・単語ではあるが、細かい内容の箇所はベトナム語もガイドブックに記入した。なお、ベトナム語に翻訳する際は、誤った情報を提供しないため、実際に柏市で提供している引っ越し案内の情報を確認し、google翻訳を用いて推敲を重ね、作成した。PowerPointの作成については、より分かりやすくするため、実際に見てもらおうガイドブックのサンプルを配るだけでなく、ガイドブックの内容と同じイラストをPowerPointにも取り入れた。

#### 6. 市役所でのプレゼンテーション

活動日：9月7日 10:30 柏市役所にて

面談相手：柏市共同推進課 永塚様 伊東様

私たちは4日と5日に作成した資料を使い、市役所の方々に活動報告をしに市役所を訪問した。打ち合わせも担当してくださった伊東様と、柏市地域づくり推進部 協働推進課次長の永塚様が私たちのプレゼンテーションを聞いてくださった。二日間準備や練習をし

た成果をしっかり発揮することができ、プレゼンテーションの目安時間である5分台でまとめることができました。イラストを用いたガイドブックはとても分かりやすいとお褒めの言葉をいただいた。加えて、現在柏市で実際に取り組んでいるベトナム語の案内冊子作成において、従来は取り入れていなかったイラストや図を使った表現を取り入れたいという感想をいただくことができた。プレゼンテーションの内容は非常に良いとおっしゃってくれたが、より良いプレゼンテーションの仕方について、いくつかのフィードバックをいただいた。お二人にいただいたフィードバックは下記の通りである。

#### <プレゼンテーションの改善点>

- ベトナム語しか書いていないガイドブックだとわかりづらいため、日本語の資料もあるとわかりやすい
- 写真を入れたほうが見やすい
- アニメーションが早すぎるため、遅めにした方が見やすい
- アニメーションや声に強弱をつけたほうが良い
- 具体的な数値などのデータを加えたほうが良い

## 7. プレゼンテーション準備

活動日：9月14日

市役所でのプレゼンテーションを終え、学内報告会に向け最終調整を行なった。担当の松島先生と黒須先生にご同席いただき、プレゼンテーションの確認を行い、フィードバックをいただいた。

- スライドを有効に使い理解しやすくするとい
- 事前学習や市役所訪問の内容を選別し、簡略化したほうがいい
- 全体のスライドを5,6枚にし、各ページ1分ほどを目安にすると良い
- この実習を通じて感じた柏市の国際交流の現状や問題を伝えるべき
- ゆとりを持って話ができるよう説明は簡単にグラフや図を活用するべき

先生方にいただいたフィードバックを元に原稿や担当箇所の確認を行った。今回のプレゼンテーションでは事前学習から市役所訪問における流れと、ベトナム人サポートを行う決定をした経緯、実際に冊子を作成した手順を紹介するとともに以下の3点をまとめとして取り上げ紹介することを最終的なまとめとした。

- サポートやサービスの対象者にニーズ調査を行い、要望に沿った対応や選択をすることが重要だという点
- 学生ができるサポートの特徴として、完璧ではなくわかりやすさを重視するべきだという点
- 人力だけではなく、テクノロジーを用いて効率的に作業することができるのは学生な

らではの強みであるという点

以上の観点から学生だからできることの重要性を伝えられるような内容を目指し新しく Power Point を作成した。

## 8. プレゼンテーション準備

活動日：9月18日

先生方にいただいたフィードバックを元に作り直した Power Point に沿って、リハーサルを行った。各自で考えた原稿内容に偏りや被りがないかを確認し、全体の流れも確認した。同時に報告書の作成も行なった。

## 9. 学内活動報告会

活動日：9月18日

全団体が集合し、最終活動報告を行った。練習通り、制限時間内に発表を終わらせることができた上に、事前にいただいたフィードバックから短時間で効率的に活動内容を伝えることができた。ご臨席いただいた先生方や来賓の皆様からもお褒めの声をいただくことができた。またプレゼンテーションの後に「作成した冊子はどのように活用されるのか」というご質問をいただき、市役所での実際の事業としてイラストや図を使用したパンフレット作りを行うとご回答いただいたことをお伝えした。

## 10. 活動を終えて

6月から開始した我々のプロジェクトを通して市役所の方々との交流や在住外国人の方々との交流の中で様々なことを学ぶことができた。活動最中は、常に学生である私たちにできることは何かということ念頭に置いていた。開始当初は「学生にできることは限られている」と考えていたが、次第に「学生だからこそ生み出せるものや行動がある」ということに気がついた。例えば、現代のテクノロジーを使った作業や SNS を利用した活動は私たち学生にとってとても身近なものであり、私たちの活動の武器になるようなものであるということを見つけた。

また、市役所の皆様との話し合いや学校訪問での機会に、社会でのマナーや礼儀について意識させられるような場面もあった。地域連携実習での活動を通じて普段体感することのない「社会に出る」ということ責任を多少なりとも実感することができた。これは私たちがこれからの学生生活を行なって行く上でとても重要なものであり、貴重な経験になったと言える。

今回の実習を通して、私たちが生活している柏市では国際交流についてさまざまな取り組みがなされているということを知ることができた。外国語での窓口サービスや、ゴミの分別表の配布、メール配信サービスなど多くの事業が行われていた。しかし、これらのサービスを利用する人々が少ないのも現状であった。このような現状に直面し、私たちは改

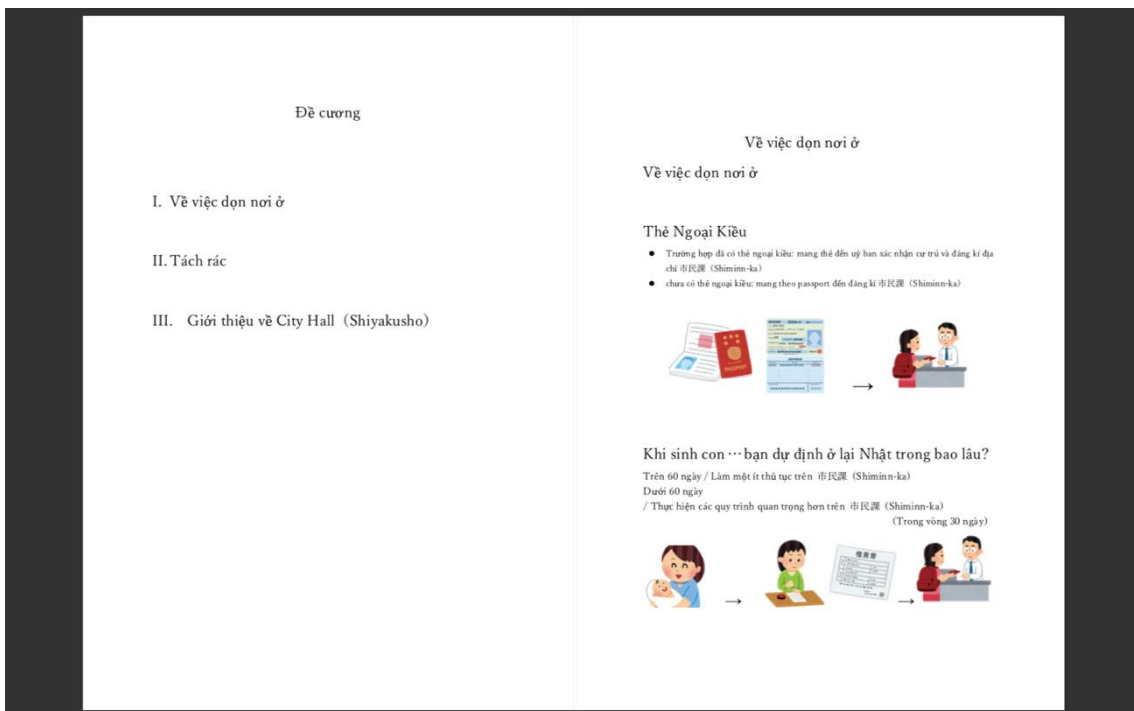
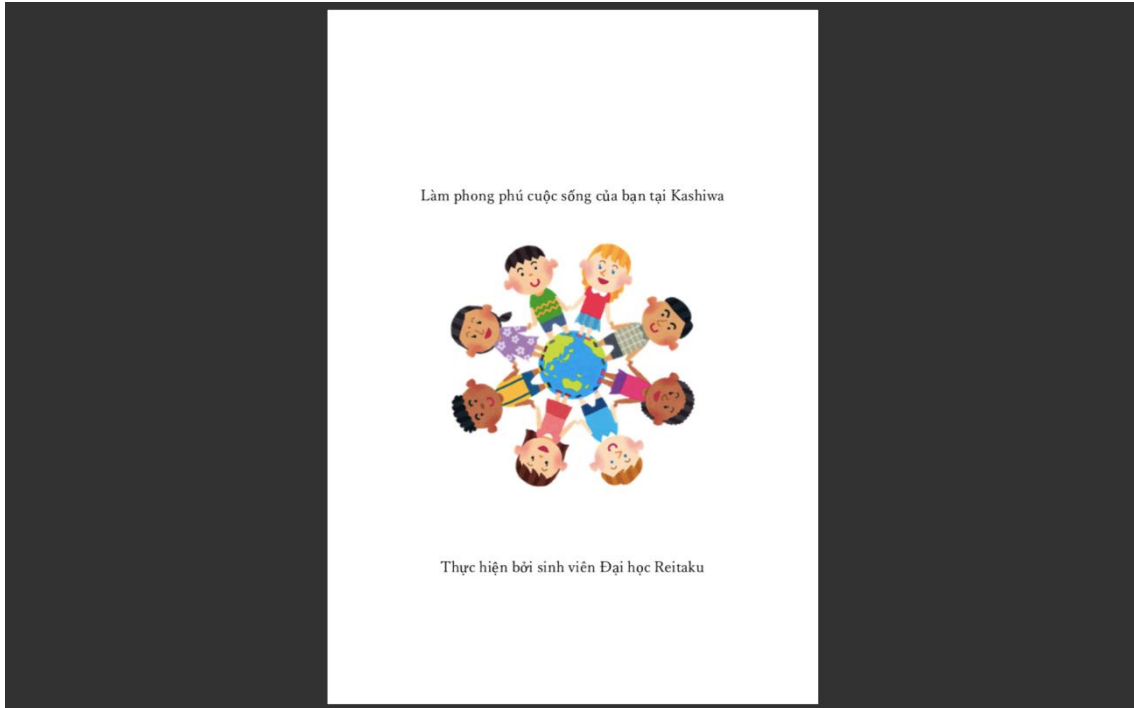
めてニーズ調査の重要性について再確認するとともに、情報の伝達の重要性も知ることができた。学内報告会を持って私たちの活動は終了するが、今後も柏市や身近な都市の国際交流について積極的に考え、学生にできること、学生だからできることを形にして行きたいと思う。加えて、作成した冊子は現在も改良を重ねており、ベトナム語のネイティブの学生にアドバイスをもらいながら完成に近づけている。完成次第、市役所に日本語版と合わせて最終的な報告をする予定である。

最後に、私たちの活動にご協力とご支援をいただいた担当の松島先生、黒須先生、学生支援グループの高須様、柏市協働推進課の永塚様、村山様、伊東様、聞き取り調査にご協力いただいた麗澤大学の留学生の皆様、朝日国際学院柏日本語学校の職員、学生の皆様に感謝するとともに、この活動を通して学んだことを生かし、今後の学生生活をより良いものにして行きたいと思う。

## 《添付資料》

学生たちで作成した「在留ベトナム人向け生活ガイド（案）」

ベトナム語版



### Để đi chuyển

- A) Từ thành phố khác đến Kashiwa / 転入届 (tennyuu-todoke)
- B) Từ thành phố Kashiwa đến thành phố Kashiwa / 転居届 (tenkyo-todoke)
- C) Từ Kashiwa đến thành phố khác / 転出届 (tennyuru-todoke)



Trên 市民課 (Shiminn-ka)

### Tách rác

Quy tắc thành phố Kashiwa ... Poster

↓ Nó nằm trong tòa thị chính ↓

↓ Nó nằm ở trung tâm dịch vụ của trạm Kashiwa ↓



Có các quy tắc theo ngày trong tuần

Vui lòng kiểm tra ở đó!



Giới thiệu về City Hall



Bản đồ đến City Hall

Điện thoại: 7167-0941

Địa điểm: 5-10-1 Kashiwa, Thành phố Kashiwa 277-8505

Bộ phận phụ trách

協働推進課 (Kyoudo-suishin-ka)

/ Hỗ trợ của người nước ngoài

市民課 (Shiminn-ka)

/ Thẻ cư trú, đăng ký gia đình, đăng ký con dấu, v.v

環境サービス課 (Kannkyou-service-ka)

/ Về rác và môi trường



<p>目次</p> <p>1. 引越しについて</p> <p>2. ゴミ出しについて</p> <p>3. 市役所について</p>	<p>引越し</p> <p>入国する時</p> <p>在住カード</p> <p>持っている / 持って市民課に行く → 市民課 (Shimin-ka)</p> <p>持っていない / パストポートを持って行く → 市民課 (Shimin-ka)</p>  <p>出産した時 --- どれくらい日本に滞在しますか？</p> <p>60日以内 / 書類を出します → 市民課 (Shimin-ka)</p> <p>60日以上 / 特別な書類を出します (30日以内に) → 市民課 (Shimin-ka)</p> 
---	---



## 引越し

- A) 柏に来る / 転入届 (tennyuu-todoke)
- B) 柏市の中で動く / 転居届 (tennkyo-todoke)
- C) 柏市から出る / 転出届 (tennsyutu-todoke)



→ 市民課 (Shiminn-ka)

## ゴミ出し

柏市のルール … ポスターがあります  
↓ 市役所と柏駅のサービスセンターにあります ↓



曜日ごとにルールがあります！



柏市役所



柏市役所

電話 : 7167-0941

住所 : 277-8505 柏市柏5丁目10番1号

色々な部署

協働推進課 (Kyoudo-suishin-ka)

/ 外国人のサポートをしています

市民課 (Shiminn-ka)

/ 色々な手続きをしています

環境サービス課 (Kannkyou-service-ka)

/ ゴミ出しについての仕事をしています

Làm phong phú cuộc sống của bạn tại Kashiwa



Thực hiện bởi sinh viên Đại học Reitaku

## Đề cương

I. Về việc dọn nơi ở

II. Tách rác

III. Giới thiệu về City Hall (Shiyakusho)

## Về việc dọn nơi ở

### Về việc dọn nơi ở

#### Thẻ Ngoại Kiều

- Trường hợp đã có thẻ ngoại kiều: mang thẻ đến uỷ ban xác nhận cư trú và đăng kí địa chỉ 市民課 (Shiminn-ka)
- chưa có thẻ ngoại kiều: mang theo passport đến đăng kí 市民課 (Shiminn-ka)



### Khi sinh con... bạn dự định ở lại Nhật trong bao lâu?

Trên 60 ngày / Làm một ít thủ tục trên 市民課 (Shiminn-ka)

Dưới 60 ngày

/ Thực hiện các quy trình quan trọng hơn trên 市民課 (Shiminn-ka)

(Trong vòng 30 ngày)





## Để di chuyển

A) Từ thành phố khác đến Kashiwa

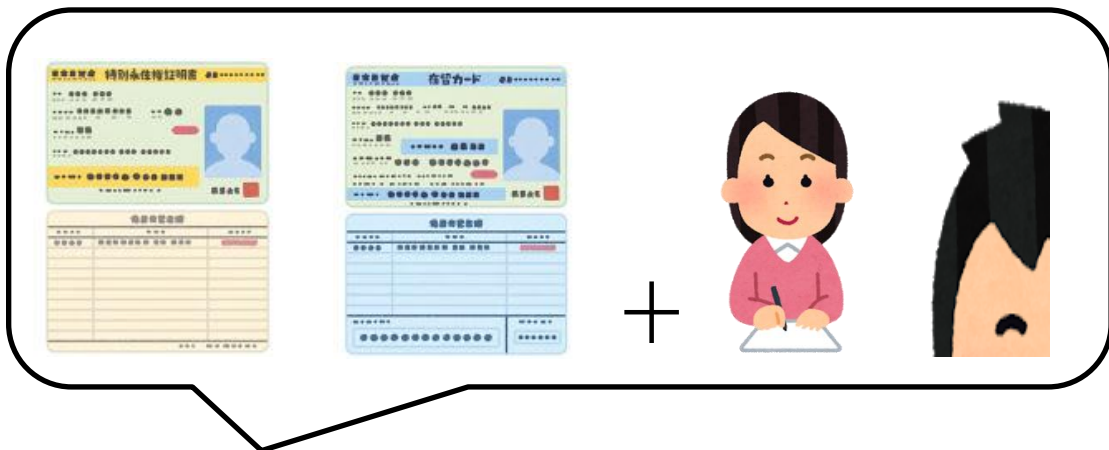
/ 転入届 (tennyuu-todoke)

B) Từ thành phố Kashiwa đến thành phố Kashiwa

/ 転居届 (tennkyo-todoke)

C) Từ Kashiwa đến thành phố khác

/ 転出届 (tennsyutu-todoke)





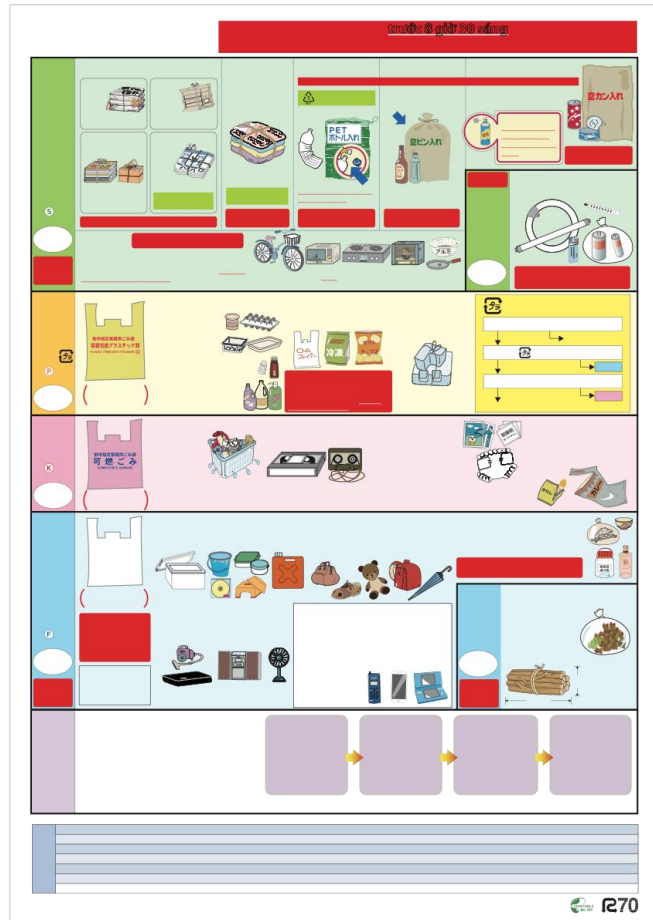
Trên 市民課 (Shiminn-ka)

Tách rác

Quy tắc thành phố Kashiwa ... Poster

↓ Nó nằm trong tòa thị chính ↓

↓ Nó nằm ở trung tâm dịch vụ của trạm Kashiwa ↓



Có các quy tắc theo ngày trong tuần

Vui lòng kiểm tra ở đó!



Giới thiệu về City Hall



Bản đồ đến City Hall

Điện thoại: 7167-0941

Địa điểm: 5-10-1 Kashiwa, Thành phố Kashiwa 277-8505

Bộ phận phụ trách

協働推進課 (Kyoudo-suishin-ka)

/ Hỗ trợ của người nước ngoài

市民課 (Shiminn-ka)

/ Thẻ cư trú, đăng ký gia đình, đăng ký con dấu, vv

環境サービス課 (Kannkyou- service-ka)

/ Vệ rác và môi trường



# ホームタウンチームを活用したまちの魅力発信

担当部局：柏市秘書課



経済学部経済学科

経済専攻

溝口 智仁

グローバル人材育成専攻

黒川 大輔

経済学部経営学科

スポーツビジネス専攻

浦邊 泰一

スポーツビジネス専攻

南 昂佑

担当教員 吉田 健一郎（経済学部）

担当職員 松野大祐（入試広報グループ）

## 1. 取り組んだ課題の内容

取り組んだ課題の内容はオールブラックスを活用した柏市の魅力発信である。元々はホームタウンチームを活用して柏市の魅力を発信する企画を考える予定だった。しかし市役所へのヒアリングの際、ラグビーワールドカップ 2019 が東京で開催されるにあたって柏市がニュージーランド代表である絶対王者オールブラックスのキャンプ地として採用されたことがわかり、それを利用する方向へと転換していった。

## 2. プレゼンに至るまでの流れ

まずは、担当の吉田先生によるシティプロモーションについての講義を受けた。そこで柏市に関心を持ってきて、いろんなところで柏市について話してくれるような関与人口を増やす方法を考えることとなった。

次に、柏市にある柏レイソルや JX サンフラワーズなどのホームタウンチームを活用し、関与人口を増やしたいということも兼ねて柏市のホームタウンチームを活用したシティプロモーションの現状を知るべく柏市役職へのヒアリングを行った。そこで柏市がラグビー WC2019 において、ニュージーランドのチーム「オールブラックス」のキャンプ地に選ばれたことを知り、グループ内で話し合った結果、既存のホームタウンチームを活用することからオールブラックスのキャンプ地であることを活用する方へと転換することとなった。

そこからグループで協力し、オールブラックスの認知度などのデータを集めたり、ハカ教室の案を出したりした。そして、ラグビー無関心層に対していかに効果的に「オールブラックスが柏にくること」「キャンプ地に行ってもらい練習風景を見たいと思ってもらうこと」を目的として、小学生を対象としたニュージーランドの文化教室と柏駅周辺でのデジタルサイネージを活用した PV (Promotion Video) 放映という 2 つの企画を考案し、プレゼンすることに決定した。

## 3. プレゼンテーションの内容

次に示すプレゼンテーション資料を作成した。PV については既存の動画サイトに上がっている動画からオリジナルに編集した映像を作成して、サンプルとして提示した。

<p style="text-align: center;"><b>ホームタウンチームを活用した まちの魅力発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ スポーツビジネス専攻 南 昂佑</li><li>・ スポーツビジネス専攻 浦邊 泰一</li><li>・ 経済専攻 溝口 智仁</li><li>・ グローバル人材育成専攻 黒川 大輔</li></ul> <p>1</p>	<p style="text-align: center;"><b>柏市にはホームタウンチームが 複数ある</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;"><ul style="list-style-type: none"><li>1. 柏レイソル</li><li>2. JX-ENEOS サンフラワーズ</li><li>3. YBC柏</li><li>4. JR東日本野球部</li><li>5. 柏エンゼルクロス</li><li>6. 積水化学女子陸上競技部</li><li>7. トルエーラ柏</li><li>8. TTC (吉田記念テニス研修センター)</li><li>9. 柏ゴールデンホークス</li></ul></div> <p style="font-size: small;">*<a href="http://www.city.kashiwa.lg.jp/about_kashiwa/home_town/index.html">http://www.city.kashiwa.lg.jp/about_kashiwa/home_town/index.html</a></p> <p>2</p>
---	--

柏市秘書課へのヒアリングから、「オールブラックス」に着目。

ヒアリング: 6/29 @ 柏市役所  
秘書課: 光井雄太氏

- ・スポーツフェスティバルを開催している
- ・小学校にホームタウンチームの選手による出前授業
- ・ホームタウンチームの宣伝のお手伝いを行っている

・ラグビーWCの最強チームのキャンプ先選ばれた

↓

オールブラックスのキャンプ地として選ばれた柏の魅力発信

3

オールブラックスが柏にくることの認知度は低い

調査期間: 2018/7/20-27

麗澤大学の学生: 19人(男子)、25人(女子)  
麗澤幼稚園に子どもを預ける母親: 5人

柏市がオールブラックスのキャンプ地になっているのを知っていますか

対象	はい	いいえ
女子学生	4	21
男子学生	2	17
主婦	0	5

4

ラグビー無関心層にアプローチする

5

市内の小中学校で文化教室を行い、小学生にアプローチをしていく

国際交流を通じた「文化教室」ハカ体験でオールブラックスの認知度UP

6

柏駅の1日平均乗降客数は約120,000人: 駅を降りた人にプロモーションする

定期外利用40,460人  
定期利用84,893人  
出典: JR各駅の乗車人員  
<http://www.jreast.co.jp/passenger/>

7

スポーツ動画で最も見るのはスーパープレー動画である

YouTubeなどでどんなスポーツ動画を見るか

動画の種類	割合
スーパープレー	52%
ハイライト	48%
珍プレー	0%

8

柏市に訪れた人にデジタルサイネージなどでスーパープレーPVを流す

サンプルPV

9

柏 や 柏の葉 の画像をネット上に増やす=街の魅力発信

10

## 4. 柏市への最終プレゼン

プレゼンは、約 10 分間行った。吉田先生や松野さんにも協力していただきながら作ったスライドで、自分たちなりに学生目線で綿密な内容のプレゼンが出来たと思ったのだが、どちらの案も採用には至らなかった。

いただいたフィードバックは主に 3 つある。1 つ目は、身近な学内の学生に対するアプローチをするといいというものである。若者の関心を引くことがとても難しい中、学生である私たちは比較的容易にアプローチすることができるからである。2 つ目は、実現するためにはより現実味のある交渉などについても考える必要があるということだ。例えば PV を放映するには、選手の著作権が絡んでくるとか小学校での文化教室を行うにはすでに決められている時間割の変更について話し合う必要があるといったようなことである。市役所の方の様子からこのような交渉はかなり骨が折れるようだ。3 つ目は、ハカに注目したのは学生ならではの発想でとても良いということだ。全体的に提案した内容は良かったがハカに着目した着眼点は特に良いと評価していただいた。

## 5. 全体を終えて～所感～

### (1) 浦邊

今回、麗澤地域連携実習では自分たちのアイデアで柏市の魅力を発信する方法を考えました。プレゼンの準備や、街頭調査など 1 年生前期でのこのような経験はとても貴重なものとなりました。

私たちのグループはホームタウンチームを活用したまちの魅力発信という課題でした。しかし、市役所へのヒアリングを終え柏市がオールブラックスのキャンプ地として採用されたことを知りホームタウンチームからオールブラックスへ軌道修正しました。この時の発想の転換や、そこからプレゼンに至るまでの準備で、様々なことを学びました。シティプロモーションについて学習したり、グループのメンバーと話し合いをしたりして、協力することで自分自身が成長できたと思います。

これからも積極的にいろんな活動に参加して今回の経験を活かしたいと思います。

### (2) 南

今回は地域連携実習ということで、地域の課題を解決する方法を考えて課題を出してくれた方へプレゼンをするという、授業をやらせて頂きました。本来なら 2 年生などのゼミからする内容をこの 1 年前期という早い時期に出来たことはとても貴重な経験となりました。今回の課題は「ホームタウンチームを活用したまちの魅力発信」ということだったので、僕個人としては、柏レイソルという大きな存在があることで、その他のマイナーなプロスポーツチームを魅力発信に使うという意識が欠けていました。ですが、まだ街の人々に認知されていないスポーツを宣伝することで、今住んでいる人たちには新しい街の魅力として、外から移住を考えている人にはもしかしたら移住の決め手になるかもしれない魅力と

なっていくと思いました。そこの宣伝に力を入れて、スポーツを通して、地域の魅力を探ることが出来るようになっていくのだろうと思いました。ありがとうございました。

### (3) 溝口

私が地域連携実習を通じて学んだ事は、課題を解決するために考え、行動するための方法だ。

実習では課題を与えられ、与えられた課題を解決するために何が問題になっているのかを考え、皆で話し合う、そうすると自分が考えていなかったような考えが他の人から出てくる。そして、出てきた案からどれが解決するために一番良いのか考え、行動に移す。そうする事で課題は解決に向かい一歩ずつ進んでいく。

これが課題を解決するために学んだ方法だ。

今後大学生活においていくつもの課題に直面していくだろうが、この実習で学んだ事を活かして、解決方法を考え、いろいろな人達と話し合い、課題を解決していきたい。

### (4) 黒川

今回、地域連携実習で私たちは、ホームタウンチームを活用した魅力発信をしようって事で、自分たちのアイデアで柏市に魅力を伝える方法を考えました。街頭調査やプレゼンの準備を1年の時からやり、とてもいい経験だと思います。

私たちは、ホームタウンチームを活用した魅力発信だったのですが、色々なアイデアがでて最終的に2019年にラグビーワールドカップが日本でやり、ニュージーランドチームのオールブラックスが柏市でキャンプをすることになったので、ニュージーランドチームのオールブラックスで魅力発信することにしました。プレゼンに至るまでの準備で様々なことを学び、自分自信が成長できました。

今回の経験を活かして、社会で役立つ大人になりたいと思います。

---

[報告会での発表]2018年9月18日@校舎あすなろ 2504 教室



# 学生の子ども・子育て支援事業計画への参画の検討

担当部局：子育て支援課

経済学部経済学科

経済専攻

田中 花音

経済学部経営学科

会計ファイナンス専攻

辛 雨珊

担当教員

大野 正英（経済学部）

担当職員

川原 花野（入試広報グループ）

## 1. 取組概要

私たちは、「学生の子ども子育て支援事業計画への参画の検討」というテーマで取り組みました。柏市の子育て支援において大学生が出来ることを軸に考え、事前学習を行った。

その後、子育て支援課と光ヶ丘地域いきいきセンターにてヒアリング調査を行い、私たち大学生が子育て支援に貢献出来る改善案を出した。

## 2. 日程

7月10日(火)	テーマ決定 アポイントメント	10日～12日
7月13日(金)	ヒアリング調査 事前準備	各自事前準備
7月19日(木)	子育て支援課にてヒアリング	ヒアリング調査実施
7月27日(金)	光ヶ丘地域いきいきセンターにて ヒアリング調査	
8月8日(水)	ヒアリング調査 まとめ	発表に向けて
8月22日(水)	提案	
8月31日(水)	資料作成	
9月3日(月)		
9月4日(火)		
9月6日(木)	子育て支援課にてプレゼンテーション	
9月10日(月)	フィードバック・資料作成	
9月18日(火)	麗澤地域連携実習全体報告会	

## 3. ヒアリング調査の実施

子育て支援課の仕事内容と子育てにおいて必要な環境・教育についての話や、窓口での実際の相談内容などもお聞きした。

子育て支援課から「子育て支援の情報を必要な人に提供するにはどうすればよいか」「子育て支援課 LINE アカウントの友だち追加を増やすにはどうすればよいか」という2つのテーマを提案していただいた。

## 4. ヒアリング調査の結果わかったこと

子育て支援課では、子ども子育て会議に参加し、市民の声を聞くことや市民への情報提供、窓口での相談を受け付けるなど幅広く行っていることがわかった。

親同士・子ども同士も交流を深められることを重要視しており、市全体としては子育てをする人を応援する環境が大切であると仰っていた。



子育て支援課、光ヶ丘地域いきいきセンターどちらも共通していたのは、窓口で相談を受けそれに合う情報を提供しても知らない人が多いことだ。これにより、子育てに役立つイベントや施設などの情報が十分に行き渡っていないことがわかった。



子育て支援課でのヒアリング調査の様子



光ヶ丘地域いきいきセンターでのヒアリング調査の様子



## 5. 提案内容

提案していただいた「子育て支援の情報を行き渡らせるためにはどうすればよいか」  
「子育て支援課 LINE アカウントの友だち追加を増やすにはどうすればよいか」の2つの  
テーマの改善案を、子育て支援課に提案した。

### ●子育て支援の情報を多くの人に伝えるために

- ◇ 子ども服・おもちゃを取り扱う店舗や、病院の小児科・産婦人科などに柏市役所で配布しているハンドブックや福祉施設が記載されているチラシを置く
- ◇ 育児に関連のある商品を購入したお客さんの袋の中にチラシを入れる
- ◇ ファミリーレストランなどでチーパスを利用するお客さんにハンドブック・チラシの情報を提供する
- ◇ 児童手当の書類と一緒にどのような情報を必要としているのかアンケート調査を行い、初年度はハンドブックも送付する

### ●子育て支援課の LINE アカウントの友だち追加を増やすために

- ◇ 友だち追加でダウンロードできるイベントのスタンプを作成する
- ◇ アカウントQR コードが記載されているチラシをファミリーレストランなどに置き追加を促す

## 6. フィードバック

上記の提案内容で子育て支援課にてプレゼンテーションを行った。

その後フィードバックを頂いた。

- ◇ LINE スタンプだけをもらってブロックされてしまう対策について
- ◇ 店舗にチラシを置くことによる店側のメリットも考える
- ◇ 効果をもっと具体的に、数値化する
- ◇ 自信を持ってプレゼンを出来るように

## 7. フィードバックを踏まえて

ご意見頂いた改善点を見直し報告会に向け以下の内容を追加した。

- ◇ LINE スタンプだけ貰ってブロックされない対策として毎日情報をチェックすることでプレゼントが貰えるなどスタンプラリーのような形式にする
- ◇ ある店舗で子育て支援のチラシを貰って子育て支援課に持っていくことで子育て支援の情報入手でき尚且つ割引券をプレゼントする
- ◇ 店舗番号を記載することでどの店舗の利用が多いのか絞り込むことが出来る

◇ 報告会に向けてプレゼンテーションや日本語の練習も行った



報告会で使用したスライドの一部

## 8. 感想

<田中 花音>

今回、柏市の子育て支援に携わり、子育て支援課の前に掲示されている子どものための遊ぶ施設やメンタルのケアなどが出来る場所があると知れて、自分が思っていたよりも国や市は手を差し伸べてくれていると知りました。

メンバーの辛さんは留学生のため、中国と日本の子育て支援の違いを話すと、子育て支援課の方々も関心を持って下さり、私自身も大変勉強になりました。

私は、市役所で働きたいと考えています。その目標の中でプレゼンテーションを出来たことは貴重な経験だと思います。

情報を伝えるにはどうすれば良いかというテーマで活動してきたため、今後は子育てに役立つ情報を周りに伝える活動をし、少しでも柏市の子育て支援に携わりたいです。

<辛 雨珊>

どの国でも子どもは国の未来だと考えます。

近年、少子高齢化や核家族化の進行により、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化してきました。実は、このような状況は全ての国にも現れています。

子育て支援事業計画で子どもの数が減ることは遊びの機会の減少に繋がることや、各地域には、公園、子ども図書館、プールなどの施設があることを学びました。

金銭面でも政府は援助を行っていることや、保育園の解放時間が拡大するなど大半の保護者はこんなに多くの福祉情報があることを知りません。

大学生として私たちが力を尽くすべきだと思いました。

# 柏の葉キャンパス地区を賑やかにする施設づくり (柏市北部まちづくりに関することについて)

担当部局：柏市北部整備課

外国語学部外国語学科

英語・リベラルアーツ専攻

松本 千穂

経済学部経営学科

経営専攻

山下 彩香

担当教員

佐藤 仁志 (経済学部)

担当職員

砂川 亜里沙 (地域連携センター)

石塚 高秋 (同上)

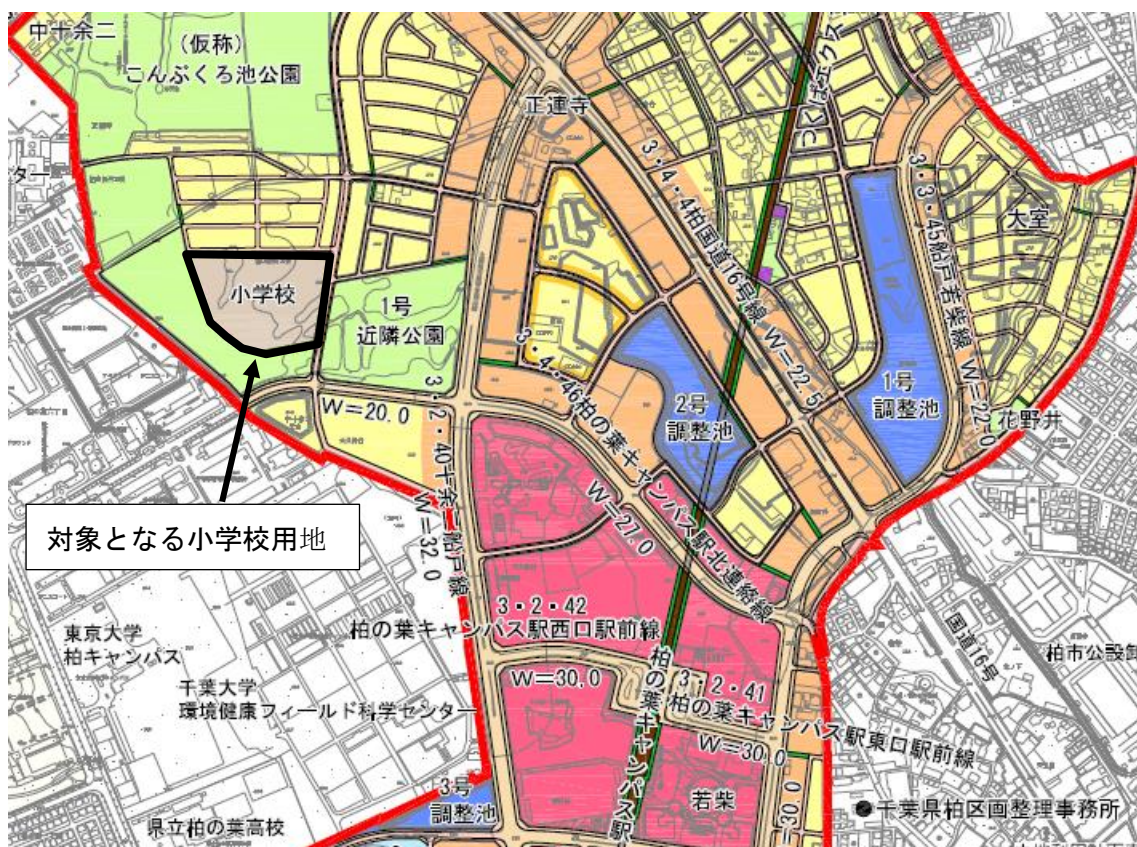
私たちは、「柏市北部のまちづくりに関すること」について調べました。2人という少ない人数でしたが、2人だったからこそ意見もすぐまとまりうまく話し合いをすることが出来ました。

## 1. プロセス

日程	内容
6月7日(木)	全体講習会1
6月12日(火)	全体講習会2
6月19日(火)	全体講習会3
<b>【グループワーク】</b>	
6月19日(火)	キックオフミーティング(テーマ検討開始)
6月28日(木)	問題意識の共有化
7月3日(火)	具体化された課題の報告, 基礎調査の分担
7月10日(火)	ヒアリング調査の項目確認
7月11日(水)	柏市へのヒアリング
7月17日(火)	ヒアリング調査のまとめ報告
7月24日(火)	特性要因図の報告
8月6日(月)	プレゼンテーション資料作成・内容確認, 練習
8月9日(木)	柏市へのプレゼンテーション
9月13日(木)	報告書作成
9月18日(火)	全体報告会

## 2. テーマの概要

初めに私たちは、「北部まちづくりに関すること」というテーマで活動してきました。そこで柏市の職員の方からの情報や資料、現地調査を基に柏市北部について調査を行ってみたいところ、もともと小学校を建てようとしていた土地が余っていることを知ることができました(下図参照)。柏市の職員の方から、この土地を活用して開放的で柏市内に立地する企業と連携できるような施設の提案をしてほしいとの依頼がありました。現地へ行ってみたいところ柏市北部の地域では若い世代や親子連れが多く、その年齢層に対応した建物がたくさんあることがわかりました。小学校用地は今ある周りの建物と同じような施設を作っても、ほかの施設よりも土地の広さはなかったため客が集まらないと思い、ほかにはないような施設を作ることができないかと思い私たちは活動してきました。



出典：柏市「土地利用計画図」

### 3. ヒアリング調査の結果わかったこと

事前の調査から、居住者の年齢層（人）、この町へ訪れる人の交通手段（交通）、それぞれの施設の利用者数（施設）の3つの観点からヒアリング内容を決定しました。そして、7月11日（火）柏市都市部北部整備課にお邪魔して、柏市北部のまちについて伺いました。以下はヒアリング内容のまとめです。

（ヒアリング対象者：柏市都市部北部整備課 片上泰輔様、御園生学様）

#### 1) 人

- ・ 柏市全体では高齢化が進み、5～10年たつと、柏市の4人に1人が高齢者（65歳以上）になってしまう。
- ・ 北部の居住者は若い世代が多く、また小さい子供をもつ家族が多い。

#### 2) 交通

- ・ 交通手段としては車が多い。公共交通機関を利用する場合、バスや電車などがあるが、柏駅からのバスは1時間に2本程度。
- ・ 電車は1回乗り換えなければならない。そのため、柏市以外の居住者が公共交通機関を使つての柏市北部への訪問はとても不便であることがわかる。

#### 3) 施設

- ・ 柏の葉公園 年間来場者数 約140万人（年々増加している）
- ・ 柏の葉ららぽーと 年間来場者数 約250万人

#### 4. プレゼンの概要

現地調査やヒアリング調査の結果に基づいて、柏の葉キャンパス地区の特徴と課題に関わる要因をまとめました。

現地調査やヒアリング調査から、柏の葉キャンパス地区の強みは柏市が AI 企業を誘致しようとしていることで、弱みは見て楽しむ植物が少ないことが挙げられました。そのことを踏まえて、柏の葉キャンパス地区をにぎやかにするための施設を考えました。そして、ヒアリングを行った柏市役所都市部北部整備課の方々に対して、8月9日にプレゼンテーションを行いました。

##### 1) 小学校用地の活用方法

以下は小学校用地の活用方法に対する提案の概要です。

#### **「花を主とした開放的な美術館にし、さらに AI 技術を活用したほかにはない施設を作り運営する」**

- ・ 柏の葉キャンパス地区に誘致する AI 企業の技術を活用した展示  
AI を使って植物を栽培する様子を展示したり、AI 技術を体験できるイベントを実施するなどして柏の葉キャンパス地区に誘致された企業の技術や活動を見たり体験したりできるような施設にする。また、AI のデジタルアートと実際の花を融合させた写真映えする展示をして、大人も満足できるような施設にする。
- ・ 地元の方にも利用してもらえる施設  
柏の葉の住民の方の活動を発表するようなスペースを作り、地元の方にも足を運んでもらえるような施設にする。

#### 5. プレゼンに関して市役所の方からのフィードバック

私たちのプレゼンが終わった後に、プレゼンを聞いてくださった市役所の方から感想や意見をいただきました。

##### 提案に対してのフィードバック（感想）

- ・ 現地調査に基づいた現状把握の部分をもう少し詳しく説明するとよい
- ・ 自分の意見を相手に理解してもらうために、発表の根拠となるバックデータが不足している
- ・ プレゼンを始める前に、目次やどのくらいの長さの発表になるのかを入れることで聞き手が飽きずに聞いてくれる発表になる
- ・ 説得力のある発表にするために、ほかに地区との比較や市民のニーズ、意識調査などのデータを入れるとよい

- ・ 発表の時はそれに適した言葉づかいをし、メリハリをつけ意識的にゆっくり話すと聞き手に伝わりやすくなる
- ・ 特に聞いてほしい重要なことを話すときは、重要だと伝え聞き手に正確に伝える
- ・ 市役所の方自身もプレゼンする機会が多くあり、その時に実際に意識していることを交えて教えてくださいました。

## **6. 本プロジェクトの感想**

このようなプロジェクトを体験したのは初めてで、さらにプレゼンテーションの経験も少ない中だったのでとても緊張しましたが、実際に社会に出て働いている方たちから意見をいただいたことはとても貴重で価値のあるものだったと感じました。また、アポイントの取り方やヒアリング調査、プレゼンなど社会に出たときとても必要になることを体験することができ、将来に役立てることができると思います。今回の経験を生かして自分自身を成長させていきたいと思っています。

# イオンモール株式会社 イオンモール柏

## イオンモール柏 Aクラス

### 外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻

越智 なつみ

英語コミュニケーション専攻

児玉 星子

### 経済学部経済学科

経済専攻

池田 光聖

経済専攻

齋藤 航平

経済専攻

高橋 由伸

### 経済学部経営学科

経営専攻

袁 サイ晨

経営専攻

孫 秋怡

担当教員

下田 健人（経済学部）

篠藤 涼子（経済学部）

担当職員

川瀬 達也（入試広報グループ）



## 1. はじめに ～いただいた課題～

イオンモール柏様からは、「社会貢献」と「経営」という2つの課題を頂いた。私たちAクラスは、前者について、

「ショッピングモールがお客さま（地域住民）の健康増進やコミュニティの場として貢献するためには？そのための施策を考える。＊社会問題解決の視点で（少子高齢化、長寿化、高齢者の社会との接点が希薄になっている状況だ、行政の社会保障問題など）」

というテーマに取り組み、「健康増進」と「コミュニティ」をキーワードに課題解決と施策の提案を目標とした。

## 2. 取組概要

6月20日	キックオフミーティング（2クラス合同）
6月28日	メンバーの交流・今後の内容の話し合い、決定
～7月5日	担当者様へのインタビュー内容の取り決め、確認
～7月12日	各自が施策を提案、まとめ
～7月19日	施策を提案の修正、まとめ ● お客さまへのインタビューを実施
～7月26日	アンケート、インタビューの内容、日時等検討、決定 ● 包括センターへのインタビュー実施 ● テナントへのアンケート実施
～8月5日	アンケート・インタビューの集計、提案及び発表内容作成
8月6日	イオンモール柏での成果発表
～9月24日	フィードバック、学内発表資料作成

- 毎週木曜の昼休みにメンバーが集まり、話し合いを実施。
- 木曜日以外は、グループLINEでの情報交換、話し合いを実施。

## 3. 課題への取組内容、方法

私たちが取り組むことのできる課題を把握するために、まずは、メンバーで具体案を列挙した上で、現状を把握するために、イオンモール柏の担当者である上床様へのインタビュー調査を実施。

### 3. 1 計画

【取り組む、取り組める課題の列挙】

- 高齢者をターゲットとし、何ができるか案を出し合う
- 出た案の現実性、本当に必要であるかなどを吟味し、より具体性のあるものにする

- 最後に、次回まで各々が調査してくるものを決め解散  
出た案の例
  - 無料健康診断
  - 植樹体験
  - 健康セミナーの実施 etc…

基本的にイオンモール内に常設してある設備などの応用を主とした意見が多数挙がった。

補足：最終的には、これらの課題は、イオン本社の協力が必要であることが判明に、施策提案を断念した。（イオンとイオンモール柏は別枠であり、イオンモール柏は主にテナントの管理を担当している）

#### 【インタビュー・アンケート実施に向けた準備・現状の再確認】

- 今回の話し合いまでに調査してくるものの成果を共有し、話し合いがスタート
- イオンモール柏の職員である上床様に再度インタビューをする案が出る
- インタビュー時にする質問の内容を決定
- 最後に上床様へのメール内容と質問内容の最終確認をして解散

主なインタビュー内容

- 企業理念を体現するためにはどんな取り組みをしているのか
- 周辺の商店街との関わり（連携商店街の有無）
- お越しになる高齢のお客様に対する配慮などはあるか etc…



話し合いの風景

### 3. 2 インタビュー・アンケートの実施・計画修正

#### 【現状の再確認：上床様へのインタビュー】

当日はAクラスとBクラスで合流し、共にインタビューを行った。最初の30分はAクラスから質問し、残りの30分はBクラスが質問する流れでインタビューがスタートした。

私たちのクラスは、一人一個は質疑を投げかけ気になったところがある人がいたらどんどん質問していくスタイルだった。ここで気をつけておきたいのが、何も考えずに質問するのではなく本当にその質問が我々のテーマに必要なのかどうか。また、Bクラスの質疑応答からも自分たちのクラスに使えるような内容がある可能性もあるため重要なことは聞き逃さないようにした。インタビューを終え、両クラス共に共有できることは共有し、解散した。

#### 【計画の修正：インタビューを終えた感想】

インタビューでは、社員側の目線の意見はとても参考になることを再認識できた。私たちが、施策していた内容には、本社の協力が必要であることがほとんどで、大きな計画の見直しが必要であることを知った。しかし、上床様の発言からは、私たちの実現可能性が高い、新しい切り口も発見することができたことは、お大きな収穫であった。また、後日の木曜の話し合いでやはり現場にいる人の話が重要だという案が出て、今度はお客様、各テナントや社会貢献としての取組を実行している包括センターに話を伺うことになった。

#### 【現状の分析：お客様へのインタビュー】

事前に質問内容を決めておき、2人1組で高齢者を中心にアンケートを行った。

- 結果：あまり大きな成果は得られなかった。
- 推定理由：質問に対してあまり深く考えずに答えるお客様がほとんどのため、だいたい同じ感じの答えになっていた。
- 反省・今後への改善案：これは自分たちの判断ミスでもあるので次回の包括センターとテナントへの質問では今回のような失敗をしないようにするため改善策を練る（例：質問内容を明確にする、ターゲットを変える）、この日は解散となった。
- 木曜の話し合いで情報共有。

この木曜日の話し合いで、テナント同士が「イオンモール柏をコミュニティとして繋がることによって、横のつながりを作り、地域活性化に繋がられるのではないか」という結論に至った。具体的には、各テナントが集まり、自社ブランドでのファッションショー

や、地域住民、特に高齢者に教えていただける手芸教室などをイベント形式で行うという内容となった。

#### 【現状の分析：包括センターと各テナントへの質問】

包括センターへの質問には2人、他のメンバーは各テナントへ向かうという役割分担を行い、実施した。

#### ● 包括センター

包括センターの担当者が一人であることも考え、質問形式で、インタビューを2人で実施した。

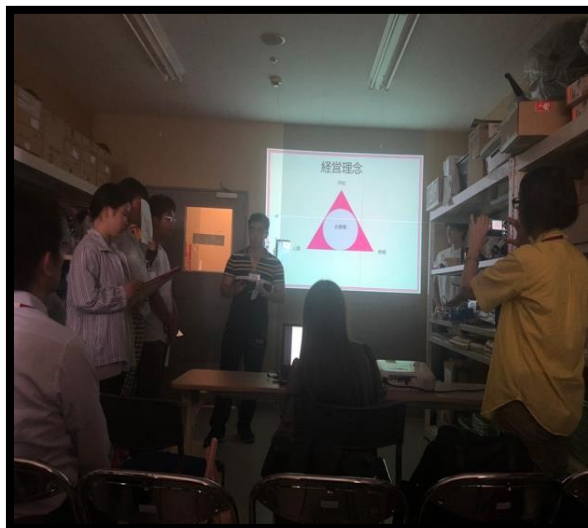
- 結果：
  - ◇ イオンモール柏とは独立した機関であること
  - ◇ 職員が直接お客様のもとに伺形式でお客様と接していること
  - ◇ イオンモールのテナント様との連携は厳しい
- 具体的成果、今後の施策のヒント
  - ◇ 認知症予防に関する講座や、
  - ◇ 現在、イオンモール柏には、ウォーキングスペースがあることを知る。それらも何かに使えるのでは？と感じた。

#### ● 各テナント～

各テナントには、アンケート用紙紙を配り、後日回収という形で効率よく情報収集に取り組んだ。

- 対象者：
  - ◇ ユニクロさん
  - ◇ グリーントピックスさん、
  - ◇ *Right on* さんなどのテナントさんにお願ひしました。
- アンケート内容：
  - ◇ 自分たちの考案したイベント（例：ランウェイイベント、一押しの衣服発表会など）に対してどう感じたかという形式で、その反応を把握
  - ◇ 結果：分かりやすくかつ明確にアドバイスを頂いた
  - ◇ アドバイスを元に最終的に何をするのか次回の話し合いで確定させようという事でこの日は解散となった。

### 3. 3 成果報告・要改善事項の把握



プレゼンの様子 (1)

#### 【成果報告：8月6日】

当日はAクラスとBクラス共に向かいAクラス→Bクラスの順で発表する形になった。

Aクラスは、具体的施策として、

1. 高齢者を主にターゲットとした「手芸教室」と、
2. イオンモール柏としてのコミュニティ形成のための「ターゲット別のイベント：ランウェイ等」

の2つである。発表の順番、及び内容は

- ① 袁さんの経営理念について
- ② 高橋さんの問題提起
- ③ 齋藤さんの解決手段・効果①
- ④ 池田さんの解決手段・効果②
- ⑤ 児玉さんの解決手段・効果③
- ⑥ 越智さんのイベントの提案
- ⑦ 孫さんのまとめ

の流れで進行した。

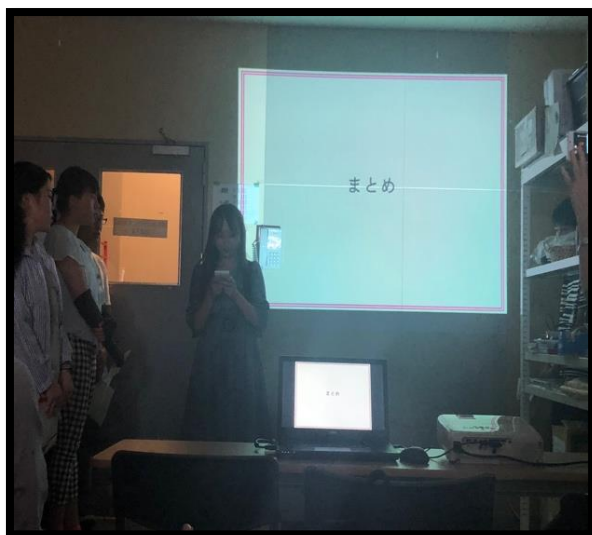
#### 【好評だった点】

イオンモール柏の課題を的確に捉えていて、それに対する問題提起が分かりやすくまとめられていて非常に良かった。また、イベントの提案であった手芸教室やランウェイイベントなど職員側では思いつかないよう提案であったことは高評価をいただいた。

#### 【反省点と課題への感想】

提案の内容自体は良かったが、それをするためのコストや費用などを込みで考えてあるともっと良かった。

プレゼンの内容とイオンモール柏様の職員の方々から頂いたアドバイスから、自分たちはより深くまで物事を考えることが出来ないという課題を得ることが出来た。これは社会人になってから求められることの1つなので、これからの大学生活でこの課題や細かな改善点を克服できるよう精進していきたいと感じた。



プレゼンの様子（2）

#### 4. 全体のまとめ、感想

今回の地域連携実習を通して、結果は良くも悪くもといった感じだったが上手くまとめられていたと思う。途中途中のアクシデントもあったがそれもきちんと皆で話し合いなどをして乗り越えられたことは大変貴重な経験だと私たちは感じた。また、全体として、麗澤 地域連携実習を終えて、自分たちにとっても良い刺激になった。今回の活動は、普段の生活では絶対に経験することの出来ないことを実際に経験でき、あらゆる面で自分たちの成長に繋がったと思う。知らない人との協力活動は社会での小さな縮図ではあるがそれを経験できるということは社会人への大きな一歩となるだろう。この貴重な活動の場を提供

してくださった教授、イオンモール柏様の職員の方々や地域の皆様に多大なる感謝の言葉を述べたい。これからも学生一同日々の成長に励んでいきたいと思う。

# イオンモール株式会社 イオンモール柏

## イオンモール柏 Bクラス

### 経済学部経営学科

経営専攻	秋山 瑞葵
経営専攻	岩崎 咲良
経営専攻	京須 百香
経営専攻	五味 陽介
経営専攻	古森 奈津子
経営専攻	塚原 勇太
経営専攻	角田 晴哉
経営専攻	橋本 容行
経営専攻	山本 未来

担当教員 近藤 明人（経済学部）

担当職員 川瀬 達也（入試広報グループ）



## 1. 取組概要

私たちは、「大型のショッピングモールや商業施設が多く存在する柏市（近隣市含む）において、イオンモール柏のような中小規模の商業施設がお客様に支持されるためには？」というテーマで6月下旬から活動してきました。このテーマから、イオンモール柏へのヒアリング調査をもとにアンケートを作成し実施しました。アンケート結果から分かったことをもとに、新たなテナントやイベントの提案をしました。

## 2. プロジェクトの進行記録

日程	内容
6月20日（水）	キックオフミーティング
6月25日（月）	周辺地域の情報収集
7月2日（月）	ヒアリング前の打ち合わせ
7月6日（金）	イオンモール柏へのヒアリング
7月9日（月）	ヒアリング調査まとめ
7月16日（月）	アンケートの資料作成
7月17日（火）	アンケート調査実施
7月23日（月）	アンケートの集計
7月24日（火）	プレゼンテーションの資料の作成開始
8月3日（金）	プレゼンテーションの資料の最終確認
8月6日（月）	イオンモール柏へのプレゼンテーション
9月中旬	報告書作成
9月18日（火）	全体報告会

## 3. ヒアリング調査の実施・わかったこと

イオンモール柏において、7月6日、事前に考えてきた質問に答えていただく形式でヒアリング調査を行い、次のことがわかった。

・客層について

おもにファミリー層(40代～)次いで、30代、50代

→学生などの若い世代の利用者が少ない

・立地的問題、周辺の競合施設対策について

競合対策はあまり行えていないが、アリオや高島屋も同様に行えていないと思われる。

立地面では柏駅⇄イオン、南柏駅⇄イオンの無料バスや循環バス(麗澤大学の付近も通っている)で対策を行っている。

→80万人/年の利用者のうち全体の1.2、3割がバス利用者

・テナントについて

信用のあるところや安心のあるところをデータを参考に取り入れている

→柏は競争が激しいため入れたいテナントが入らない

・問題点

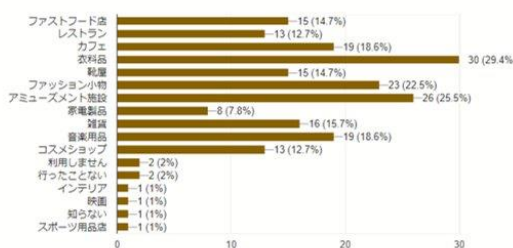
競合施設との差別化が図れず、リピーターが増えない

#### 4. アンケート調査の実施

私たちは7月17日(火)に麗澤大学の経済学部経営専攻の1年生を対象者とし、ショッピングモールについてのアンケート調査を行った。以下が調査内容。

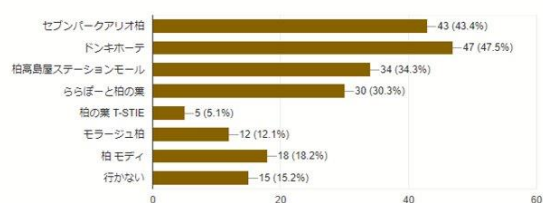
イオンモール柏に足りないと思うお店、またはジャンルを教えてください。(複数選択可)

102件の回答



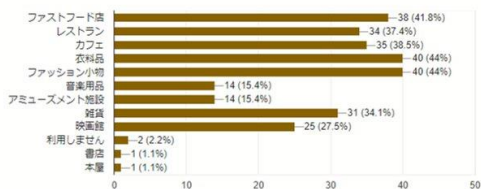
柏市近辺で利用している商業施設は何ですか?(複数選択可)

99件の回答



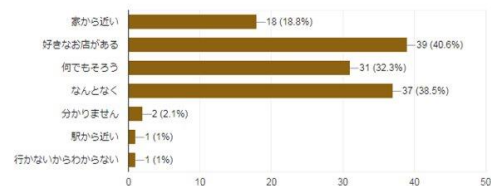
これらで利用するお店、またはジャンルを教えてください。（複数選択可）

91件の回答



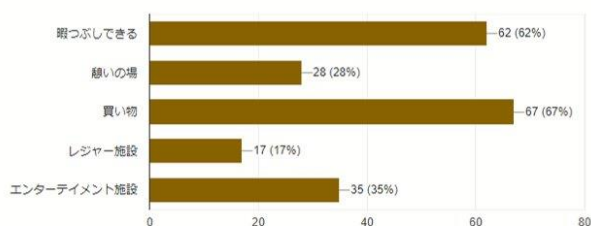
これらのお店の良いところを教えてください。（複数回答可）

96件の回答



あなたが商業施設に求めるものはなんですか？（複数選択可）

100件の回答



〈この結果から分かったこと〉

- ・ 柏市にはアミューズメント施設が少ない
- ・ イオンモール柏について知らない人が多い  
(靴屋、衣料品店などの店舗はそろっている)
- ・ ショッピングモールを暇つぶしとして利用している人が多い

## 5. 私たちの提案

以上のヒアリング調査とアンケートの結果から以下の理由で3つの施設を提案した。

- ・ イオンモール柏を多くの人に知ってもらう機会を作る→**VR STATION**

衣料品店や雑貨など店舗のラインアップは充実しているもののアンケート結果ではそれを知らない人が多いため、まずイオンモール柏にきてもらうための目玉イベントが必要だと考え、今注目されているVRを取り入れようと考えた。1度訪れてもらうことができれば、リピーターを増やす第一歩になると考えた。

- ・ ファミリー層だけでなく、学生など多くのコミュニティが利用する→**牛角ビュッフェ**  
安くて、美味しく、サービス、雰囲気が良いというだけでなくチェーン店であり信頼も高い。ビュッフェ形式であるが堅苦しくなく、学生やファミリーなど幅広い世代が楽しんで食事できるスペースとして提案した。

- ・地域の方々の憩いの場、時間を潰してもらおう場所にする→フリースペース

アンケートの結果からもわかるように、多くの利用者はショッピングモールを買い物と同じ割合で暇つぶしであったり、憩いの場、なんとなくという理由で利用していることが分かった。このことから仕事や勉強、読書など多くの人がつい行きたくなるような場所を作りたいと思い提案した。

## 6. イオンモール柏様からのフィードバック

- ・新しいテナントを入れるという提案は良いと思ったが、逸材のテナントの売り上げをどう伸ばしていくかを今後考えてもらいたい。
- ・VR STATION、牛角ビュッフェ、フリースペースのテナントを入れることによってそれらが今後どのようになるのかを考えてもらいたい。（牛角ビュッフェの場合は売上について、フリースペースの場合は具体的な場所について）
- ・VR STATION を実際に取り入れた後の費用や集客数についてのビジョンの追及ができることより良かった。
- ・プレゼンテーションの役割分担がきっちりされておりわかりやすいプレゼンだった、今後ともその調子でプレゼン能力の向上に努めてほしい。
- ・フリースペースの部分で絵が用いてありわかりやすかった。
- ・イオンモール柏だけでなく、イオン全体としてどのように業績を上げているのかを考えてもらいたい。
- ・経営学は将来必要となってくるものなので、経営学概論の授業でもっと経営を学んで知識をつけてほしい。

## 7. 本プロジェクトの感想

このような地域連携実習という貴重な機会をいただきとても良い経験になりました。与えられたテーマに沿って自分たちでヒアリング調査のアポ取り、アンケートを作成し実施するという普段の授業ではできない経験をすることができました。そして自分たちの考えを企業の方々に聞いていただくことで、自分たちに足りない考えや視点を得ることができました。

外部環境や内部環境を分析し、家族層と学生をターゲットに絞りそれに当てはまるテナントやイベントを考えました。周辺競合施設との差別化を図るためにはただ他の施設とは違うことを提案するだけでなく、イオンモール柏独自の強みを生かすことが大切だということを学びました。メンバー全員が経営専攻であることを生かして話し合いを行い、テーマに沿った内容を調べ提案し経営についても実践的に考えることができました。

今回のプレゼンテーションも企業の方にお褒めの言葉を頂くことはできたが、アドバイスをもらった通りもっと深いところまで追及して、次からはすべての質問に対応できるく

らい万全の用意をしてプレゼンに挑みたいと思いました。グループとしてはこまめにコミュニケーションをとり、それぞれ与えられた役割をこなしていったことにより、内容がまとまり、良いプレゼンテーションができたのではないかと思います。今回の経験をこれからの学生生活に活用させていきたいです。

# Honda Cars 柏

(株式会社ホンダカーズ柏 柏の葉店)

～大学生に車を購入してもらうには～

## 経済学部経済学科

経済専攻	岡田 龍輝
経済専攻	金澤 拓未
経済専攻	鬼澤 翔真
経済専攻	木村 一輝
経済専攻	吉田 真 ※ グループリーダー

## 経済学部経営学科

経営専攻	石倉 響輝
会計ファイナンス専攻	吉田 圭佑

担当教員 大越 利之 (経済学部)

担当職員 丸 優泰 (教務グループ)

## 1. プロセス

日程	内容
6月21日	第1回グループワーク ・顔合わせ ・自己紹介
6月28日	第2回ミーティング ・ブレインストーミング
7月5日～7月12日 毎週木曜日（昼休み）	定期ミーティング ・Honda Cars 柏様への質問作成 ・Honda Cars 柏様へのアポイントメント
7月19日	Honda Cars 柏様へヒアリング
7月27日～8月3日	アンケートの実施と集計 発表用資料の作成
8月30日	発表練習 ・改善点の改善 ・手順の確認
9月3日	パワーポイントの最終確認 Honda Cars 柏様での研究報告
9月18日	全体報告会

## 2. テーマの概要

麗澤・地域連携実習は、柏市や地元企業の方々直面する課題について、学生がテーマ設定を行い、問題解決を目指すものですが、今回はHonda Cars 柏様から「大学生に車を購入してもらうには」という具体的な課題テーマをいただきました。図1の通り、現状では顧客の3割以上を60～70代が占めており、30代以下の顧客は2割未満です。今後、柏市でも人口減少や少子高齢化により市場環境が厳しくなるため、将来的な需要を獲得するためにも若年層の顧客を増やすための早急な対応が必要になるそうです。

Honda Cars 柏様での課題についてのヒアリングを経て、大学生が車を購入するにあたり、一番の課題であると思われる「お金」と「情報」について、6の提案を行いました。

図 1. Honda Cars 柏の年齢層別顧客数・構成比

	顧客数	構成比
18～20歳	1	0%
21～29歳	285	3%
31～39歳	1,177	13%
41～49歳	2,260	25%
51～59歳	1,942	22%
61～69歳	1,710	19%
71～79歳	1,253	14%
80～	241	3%
合計	8869	

(注) データは、生年月日がわかる顧客分のみ

出所：Honda Cars 柏

図 2. ヒアリングの様子 (7月19日)



### 3. ヒアリングの内容・ヒアリングを通じてわかったこと

課題についてのヒアリングでは、第1に現在の広告について、第2に顧客の自動車の購入状況について質問しました。広告について質問したのは、どのような広告やメディアを使用すれば大学生に車を購入してもらえるのかを考えるために、現在、若者に対して実際にどのような広告をしているのかを確認するためです。実際に若者はどんな車種を購入するのか、新車と中古車のどちらの購入割合が高いかなど、若者の車の購入状況について質問しました。大学生の関心が高い車種や新車・中古車の購入割合などを知り、そのうえで大学生にどのように車を購入してもらおうか考えるためです。ヒアリングの結果、中古車の販売割合が予想よりも多いことを知り驚きました。そこで、中古車を学生に購入してもらおうのかと考えました。また、大学生に情報を伝達することが難しいのではないのかと考え、車への関心を持ってもらう必要があるのではないのかと思いました。最後にお金に関する問題が、大



学生にとって最も大きいと気づきました。

以下は、大学生に車を購入してもらう方法を考えるにあたり、7月19日にHonda Cars 柏で行ったヒアリング内容をまとめたものです。

(1) 広告について

Q. 一般的な広告はどのようなお客様を対象に作られるのか？

A. 30～40代がターゲットに作られており、理由としては車を購入していただける割合が多いため。

Q. 広告にはどのような方法が使われているのか？

A. CM、WEB、チラシ、ポスターなどが使われているが、紙媒体の広告から電子媒体の広告に移り変わりつつある。

Q. 広告はどのくらいの期間で新しいものと入れ替わるのか？

A. 3か月ほど。新商品が3か月から半年に1台出ているから。

補足

- ・ 店舗ブログもあるが、スタッフ個人のアピールの場としての利用がほとんどである。
- ・ CM、広告はその車に合わせてターゲットを定めて作成している。
- ・ 購入者が少ないため、大学生向けの広告は作成していない。

(2) 車の購入状況について

Q. 中古車と新車の購入台数としてはどちらの方が多いのか？

A. 中古車を販売している店舗では中古車が多いが、会社全体を見れば新車の方が販売比率が高い。

Q. 若者とそうでない人たちの新車と中古車の購入割合に違いはあるのか？

A. 今はあまり変わらないが、20年～30年前は若者の方が中古車を買う割合が高かった。

(3) 購入方法について

Q. ローンの分割回数は何回まで可能か？

A. 84回まで可能

Q. ローンの支払いは学生の場合どのようになるのか？

A. 親の同意書が必要であり、地方に親がいる場合は書類を送り、返送してもらう。

(4) Honda Cars 柏様から私たちに対するリクエスト

- ・ 麗澤大学生の運転免許証の取得率を調べてもらいたい。
- ・ 今回の実習をするにあたりテーマを通じて近年若者の顧客が減少しているので興味を持ってもらえるような斬新なアイデアを出してもらいたい。

#### 4. 運転免許証の取得率についてのアンケート結果

##### (1) アンケートの実施概要

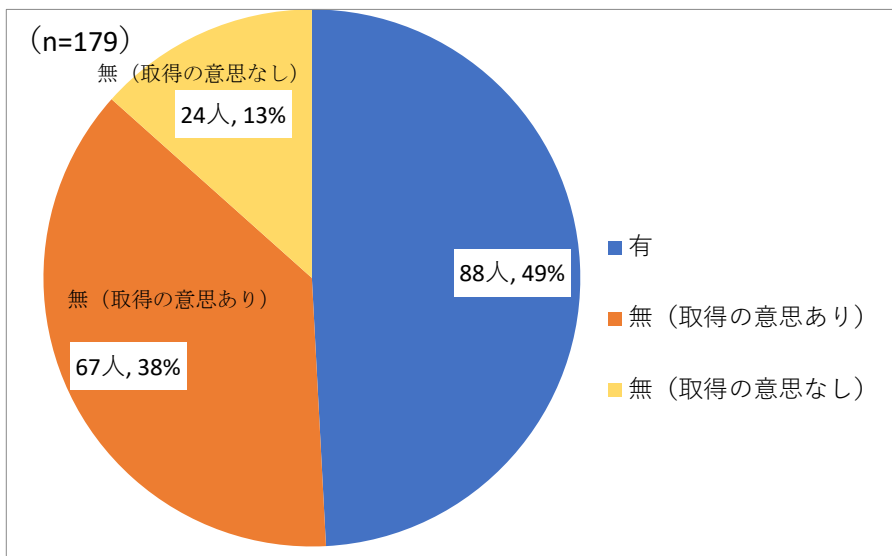
実施期間：7月27日～8月3日

取材対象：麗澤大学の学生の1～4年生男女179人

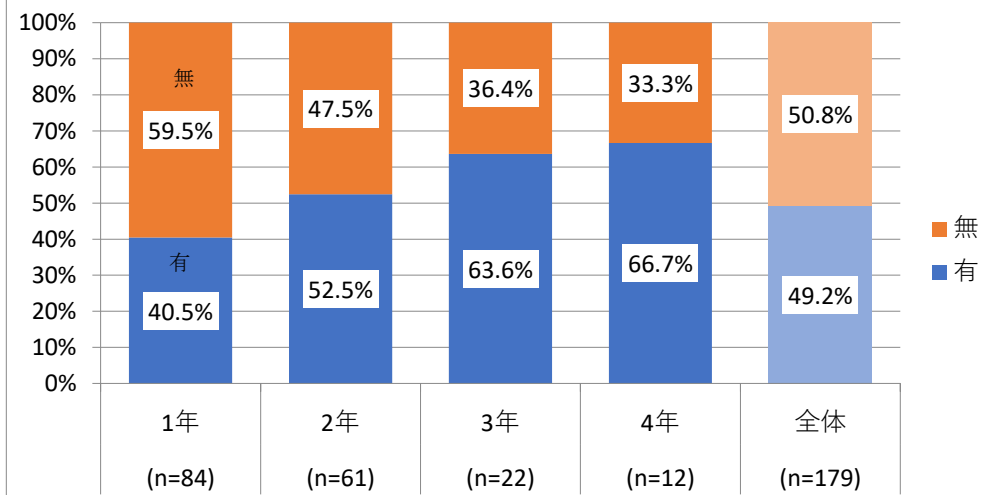
取材方法：ホワイトボードを使い大学のロビーや駐車場で直接取材  
サークルのメンバーにLINEで取材。

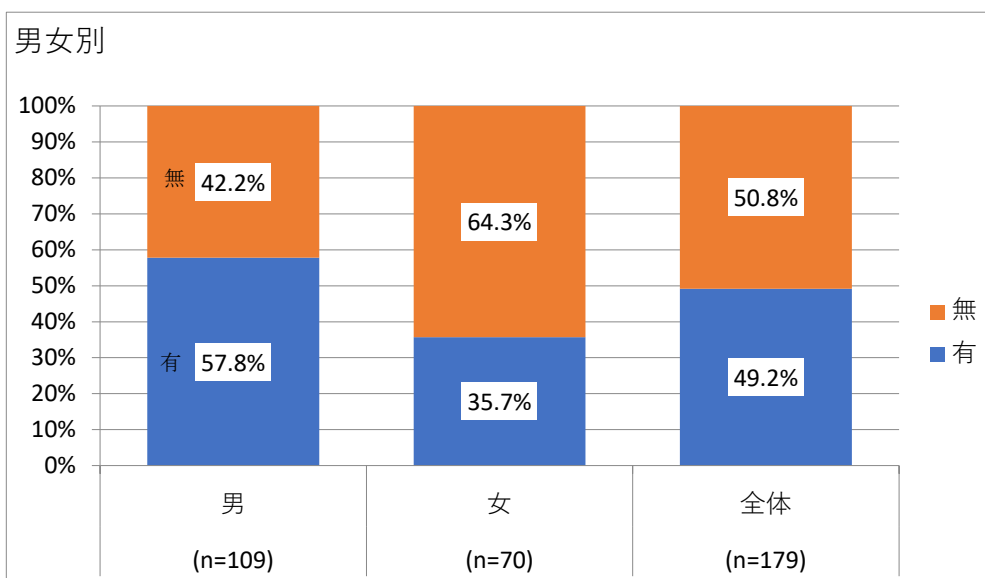
取材内容：学年男女別に免許の取得の有無、免許の非保持者の今後の取得予定の有無

##### (2) 麗澤大学生の運転免許証の取得率



##### 学年別





アンケートの結果、学生の約半数が運転免許証を保有していることがわかりました。しかし、今回のアンケート回答者は1,2年生の割合が多く、また上級生ほど運転免許証の取得率が高いことを考えると、全体でみても6割程度は免許を取得していることが予想されます。Honda Cars 柏様へアンケート結果を報告したところ、予想以上に大学生の免許取得率が高かったという感想をいただきました。

## 5. Honda Cars 柏様への提案

Honda Cars 柏様に対し、「情報に関する提案」と「お金に関する提案」の大きく分けて二つの提案を行いました。

### (1) 情報に関する提案

#### 提案1. 学生向けの説明会を開く

- 車の購入を検討していても学生と車の接点が少ないため学生は情報を得ることができない。学生向けに説明会を開くことで、免許証を持っていても車の購入を考えていない学生にも車の購入を意識させることができるかもしれない。本大学で実施されている自主企画ゼミナールなどで説明会の案を練り、学園祭で発表することが可能である。

#### 提案2. 実際に乗ってもらう

- 説明会やPVなどではやはり実際の感覚や雰囲気がわからないため、大学やディーラーで試乗会を開催する。試乗だけではなくレンタカーも種類を多くし、若者の興味を引き、簡易的にでも試乗フェアのようなものを実施して車に関心を持ってもらう。大学やディーラーで行う場合は、広報資料として紙媒体やSNSの使用が効果的だと思う。大学とディーラーだけなら紙媒体の場合でも枚数も少なくできる。

#### 提案3. ニーズに分けてPVを作成する

- 大学生の興味を引くために趣味や好みによって車種を広く選択することができるという事をアピールする。私たち自身が車に試乗し、PV などを作成し、提案1でも記した通り自主企画ゼミナールを企画し文化祭で発表することも可能である。

#### 提案4. 大学生に向けてのメディア利用

- 大学生に人気の情報ツールである SNS や使用者が多い Youtube を使い説明会や試乗会、情報の発信を行う。紙媒体での情報発信は段々と需要が減ってきているため若者に人気の物を使用する。SNS は Honda Cars 柏様でも実際に使用されているが、SNS の使用を強化することが学生購入者を増やすと思う。

#### (2) お金に関する提案

#### 提案5. 中古車を利用してもらう

- 新車を買うことが難しい学生が多いためディーラー認定中古車などを購入してもらうために提案4などと合わせてアピールする。中古車の購入には不安があるが、認定中古車であれば、安心感もある。

#### 提案6. 教習所との連携

- 学年が上がるにつれて免許証の取得率が高くなることから、学生時代に免許を取得する人が多いことがわかったので、教習所と合同でのキャンペーンを行い免許取得と車の購入を同時に考えてもらう。

## 6. 報告会後の Honda Cars 柏様からのコメントと質問

### コメント

「提案1. 学生向けの説明会の実施」に対して

- 車の説明会は Honda Cars のディーラーで行うとしても大学生が説明会にやってくるのだろうか。
- 学祭でブースを設けるとしても車の展示を行うことは可能なのだろうか、車の展示はどうするのか。

「提案2. 実際に乗ってもらう」に対して

- 試乗会は効果があるのか。

「提案3. ニーズ分けした PV 動画を作る」に対して

- ニーズ分けした PV を Honda Cars でも行っているのだが大学生の購入率は本当に高まるのだろうか。
- PV を作成するのは金銭的に厳しい。

「提案4. 大学生に向けてのメディア利用」に対して

- SNS は Honda Cars でも行っているのだが SNS の配信を増やしたとしても若者は増えるのだろうか。

「提案5. 中古車の利用してもらう」に対して

- 中古車ではなく新車の購入についての意見を出してもらいたかった。

⇒ (9/19 全体報告会) 税負担の低い軽自動車を大学生のニーズに合わせて販促する。  
「提案6. 教習所との連携について」に対して

- バイクの場合は欲しいバイクが大方決まっている場合が多いため教習所で行うのは良いと思うが車の実施では結果が出るのだろうか。

#### Honda Cars 柏様での質疑応答

- Q. 麗澤大学生に地方出身者は多いか？  
A. 他大学と比較すると地元（自宅通学）の学生が多い。
- Q. 免許をなぜ学生は取ろうとするのか？  
A. 大学生の意見的には旅行やステータス的なイメージも高い。
- Q. 車の購入は学生的にどうなのだろうか？  
A. 奨学金を借りている学生も少なくないため、金銭的な面からみて、現実的には難しいのではないのだろうか。
- Q. 大学生はアウトドアでの活動を行うか？  
A. 旅行やスキーなどアクティブな趣味が多いと思う。

## 7. 感想・まとめ

今回の地域連実習では初めての学生や教員でなく、企業の方を相手に取材やプレゼンテーションを行うという、学生時代にはなかなか経験することの出来ないことをさせていただきました。企業の方との会話一つをとっても得るものが多く、自分たちがとても幼いように感じました。今回の授業は、課題テーマを与えられ、その課題の解決策を模索するというものでした。今の時代、車以外に趣味や娯楽が多く、車に対する興味が以前と比べて低いと考え、若者に興味を持ってもらうために6つの提案を行いました。しかし、Honda Cars 柏の方々には、その案をどのように実践するのかという先の話についてもお考えになっていました。私たち学生には、先のことや具体案を考えるとすることができていませんでした、それは、私たち学生が社会に出たことがなく問題を解くことをしてもその問題を機会に改善を繰り返し、新しく実践するという経験の少なさからだと思います。

報告会では拙いなりに提案させていただきましたが、やはり報告会までの準備期間での準備の足りなさを感じました、提案は課題に即しているのか、提案は実現のめどが立つのか、パワーポイントは見やすいものになっているのか、など基本的なことがおざなりになっていたように思います。

ヒアリングのための企業への訪問や報告会での企業への提案など、大学に入り初めてのことが多く戸惑いましたが、この経験は確実に私たちにとってプラスのものになったという確信があります。この授業を行うにあたって、さまざまな方にご助言、ご助力をいただき本当にお世話になりました。またこのような機会がありましたら、今回の反省点を生かし、より良い提案ができるように努めたいと思います。

# 株式会社川和

## 外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻	小貫 航太
英語コミュニケーション専攻	木内 理沙
英語コミュニケーション専攻	國中 大晟
英語コミュニケーション専攻	小山 翼
英語コミュニケーション専攻	庄島 花穂子
英語コミュニケーション専攻	増田 穂乃香
英語・リベラルアーツ専攻	大塚 悠真

担当教員 籠 義樹（経済学部）

担当職員 山下 哲也（キャリア支援グループ）

## 1. ヒアリング事前打ち合わせ

6月26日から毎週火曜日の昼休みに集まり地域連携事業についての話し合いを開始しました。

まず初めに、株式会社川和についてのリサーチをしました。川和が作っている製品や抱えている問題点、現状についてリサーチしました。また、今回の地域連携事業において川和様から与えられた課題の一つである、会社説明会や採用基準の問題についても話し合いました。

- ・自分たちならどのような会社説明会に参加したいと思うか
- ・どのような会社に魅力を感じるか
- ・どのような雰囲気ของบริษัทに入りたいか

また、実際にエントリーシートを記入し、会社側がどこをみるのか、どんな人材を求めているのかを話し合いました。

そして、川和様の課題や現状を踏まえたうえで、その課題を解決するために必要な情報を得るために、ヒアリングで質問する内容を考えました。

## 2. ヒアリング当日

8月20日月曜日に株式会社川和柏営業所を訪問し、ヒアリングを行いました。取締役社長の川和様、総務の小山様をはじめ、たくさんの役員の方々から話を伺うことが出来ました。ヒアリングを行う前に、川和様から会社の理念や雰囲気、川和様の製品やサービスの話をしていただきました。また、今回この地域連携事業を受け入れてくださった理由、課題設定の理由、そしてその課題の背景にある離職の問題などとても深い話をしてくださいました。

ヒアリングでは小山様と麗澤大学の卒業生である遠藤様がたくさんの質問に一つ一つ丁寧に返答してくださいました。その際には録音機で録音をさせていただき、メモを取りながらお話を伺いました。

とても和やかな雰囲気の中、丁寧に对应していただき、スムーズにヒアリングを行うことができました。

## 3. プレゼンテーション準備

8月18日土曜日に川和様にて行うためのプレゼンテーション準備を行いました。日程の都合上全員集まることはできませんでしたが、グループメッセージを使用し、そこでみんな意見交換しました。まだ大学1年生で就職に関する知識もなかったため、意見を出したりまとめたりするのはとても大変でした。また、プレゼンテーションの経験も少なかったため、作るのが大変でしたが、何とか完成することができました。

#### **4. プレゼンテーション当日**

8月20日月曜日に川和様にてプレゼンテーションを行いました。

当日は、取締役社長の川和様、総務の小山様をはじめ、たくさんの役員の方々に集まっていただき、大きなアクシデントもなく無事に終えることができました。プレゼンテーション後は、たくさんの質問や感想をいただき、話を広げることができました。初めてのプレゼンテーションで内容の至らないところもありましたが、とても暖かい雰囲気聞いてくださりました。

#### **5. 地域連携実習を通して**

今回の地域連携実習を通して、様々なことを学ぶことができました。大学の枠を超えて、企業の方と関わったことで社会が抱えている問題に目を向けることができました。それに加え社会人としての基本的なマナーや礼儀を学び、実践することができました。また、大学1年という早い時期から就職活動について知ることができ、就職に対する意識が変わりました。

グループでの話し合いや、事前準備、プレゼンテーションの作成を通し、様々なスキルを身に付けることができました。

今回の実習を通して学んだことを今後の大学生活で活かし、社会に出た際にも活かせるようにしていきたいです。



## 茨城県境町で高校生と一緒にまちづくり

担当部局：境町まちづくり推進課



### 外国語学部外国語学科

英語コミュニケーション専攻	増田翔
英語・リベラルアーツ専攻	新井 彩乃
英語・リベラルアーツ専攻	小林庄太
中国語専攻	高本望愛

担当教員 徳永 澄憲（経済学部）

担当職員 砂川 亜里沙（地域連携センター）  
石塚 高秋（同上）

## 1. 課題概要

私たちは「茨城県境町で高校生と一緒にまちづくり」というテーマのもと、茨城県境町で高校生と共に「高校生の遊び場を作ろう」を実現するためまちづくり活動に参加した。6月から活動を始め、7月の境町でのフィールドワーク、8月の境町担当職員様へのヒアリング調査、「まちであそん」参加を通して課題に取り組んだ。

## 2. 取組概要

日付	内容
2018/6/7	全体講義①：PBLってどんな学び？
6/12	全体講義②：柏市ってどんなところ？
6/19	全体講義③：電話のかけ方・メールのかけ方
7/12	境町に関する事前学習
7/15	(現地調査)境町にてフィールドワーク
7/19	フィールドワークの振り返り、テーマ検討①
7/26	フィールドワークの振り返り、テーマ検討②
8/9	ヒアリング項目の整理、境町職員へヒアリングアポ取り（メール）
8/16	ヒアリング項目をメールにて送信
8/17-19	(現地)境町職員へヒアリング、まちであそん合宿、境町成果報告
9/11・9/14	発表準備
9/18	学内報告会

## 3. 境町について

境町は、茨城県の西部にある人口約2万5000人の町である。柏市の人口が約41万4000人、柏市光が丘地区だけでも約3万人いることから、比較的人口が少ない場所であることがわかる。産業は農業が盛んで、さし茶、レタス、ネギ、トマトが特産品である。観光面では、道の駅さかいや利根川の高瀬舟が有名で、4月の菜の花フェスティバルや7月の22,800発の花火が打ち上げられる花火大会では多くの人が訪れる。教育面では、英語教育にも力を入れ、各小中学校にネイティブの教員を配置している。また、麗澤大学からも留学生が出張授業を行った。治安の面では、犯罪件数が少なく、その内容も軽犯罪が多いため比較的良いと思われる。

このように住みやすい土地柄もあり、周辺市町村が前年に比べ、人口が100人から800人ほど減少する一方、境町は平成29年度に平成28年度と比べ、人口が13人増加した。

#### 4. 7月15日のフィールドワークでわかったこと・課題意識

学内で事前学習を重ねたのち、実際に茨城県境町へ向かい、一人一人が感じたことや思ったことをメモに書きながら歩いた。実際に歩いてみないとわからなかった境町商店街の実態を知ることができた。フィールドワークでわかったことを以下の通り整理した。

良い印象	もっていないという印象
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民がフレンドリーである</li> <li>・ 都心行きのバスがある</li> <li>・ 静か。自然が豊か</li> <li>・ 人は少ないが自販機がちゃんと動いている</li> <li>・ 見通しの良い町並み</li> <li>・ 川が流れていて、高瀬舟がある</li> <li>・ 美容院が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 閉まっているお店が多い</li> <li>・ お店に入りにくい雰囲気</li> <li>・ お店の看板がボロボロ</li> <li>・ 電車の最寄り駅まで遠い</li> <li>・ 道が狭い(車と歩行者との距離が近い)</li> <li>・ 駐車スペースがほとんどない</li> <li>・ 小学校が近いのに遊び場がない</li> <li>・ 観光地が点在</li> <li>・ 道の駅が利用しにくい(飲食スペースが狭い?)</li> </ul>

⇒現地の方が言うには、学校の近くにでも行かない限り若い人にはまず会えないようである。「なぜこんな若い人たちが商店街を歩いているのか不思議」と言われ、何しに来たのか疑問になって話しかけてくれた方もいた。また、空き店舗、空き家が目立ち、商店街なのに人通りが少ないなど、改善点や生かせそうな点を発見できた。

#### [課題意識]

- ・ **商店街**に関すること  
商店街の活性化をどのように実現するか/営業中の店舗のさらなる経済効果を生み出すためにはどうしたら良いのか/空き家・空き店舗をどのように活用するか
- ・ **子どもたちの遊び場**に関すること  
児童生徒が足を運びたくなる遊び場とは何か/観光やイベントを増やすためにどうすべきか



※写真：境町内フィールドワークの様子

## 5. 境町役場職員へのヒアリング

上記課題意識をもとに、境町役場のまちづくり推進課の方にヒアリングを行った。

対応者： 境町役場秘書公室まちづくり推進課

橋本健一氏、中村博明氏、佐藤友久氏、上野裕佳里氏、野村恵氏



- Q. 町役場の職員は、衣類や食品、仕事中の昼食などで商店街を利用するか？  
また、休日も利用するか？
- A. 平日は、昼食に食堂を利用する。休日は利用しない。
- Q. 商店街であるはずが、お店が閉まっている。
- A. 大型ショッピングセンター、スーパーマーケットの普及と、そちらに自分の売  
る商品を卸せば売れる、利益が出るのでわざわざ商店街でお店を出す必要が  
ない。
- Q. 境町は「川岸の町さかい」として、水運で栄え、伝統を尊重し、電車などの路線を開通  
しなかったと聞いたが、その伝統を尊重して良かった点、悪かった点は？
- A. 良い点：人や物資の集散を通し、利根川を通じた文化交流があった。  
悪い点：現在の交通面で不便な面も残る。
- Q. 境町の好きなところ、自慢できるところはどのようなところか。
- A. 英語教育に魅力を感じる（小中学校の英語の先生がフィリピンから来ている）  
程よく田舎なところ。人柄が良い（恋の関宿 情けの境）。成田空港へのバス  
がある。
- Q. 高校生の居場所づくりをはじめ、子育て政策に積極的に取り組まれているが、どのよう  
な人材を育成することを目標にしているか。
- A. 若い人の力が発揮できる町。世界でも活躍できる人材。英語の先生をフィリピ  
ンから呼び、小学生から英語だけを使う授業をしている。
- Q. 企業誘致を成功させた前と後では具体的に何が変化したか。
- A. 隣の古河市に日野自動車の工場を誘致したことで、境町に単身赴任者が多く  
住む。1人になりがちな単身赴任者向けに、イベントを検討中。
- Q. 境町は住みやすい街を目指していると聞いたが、実際の年間の犯罪件数はどれくらい  
でしょうか。
- A. 平成30年の1月～6月は96件で、前年と比べるとだんだん減ってきている。  
空き巣（家、車、自販機）が多い。千葉県と隣接しているため、犯罪者が逃げ  
てしまう懸念がある。パトロール、監視カメラの設置に力を入れている。
- Q. 境町にしかできないことはどのようなことだと思うか。
- A. 春は菜の花フェスティバル、夏は花火大会がある。菜の花フェスティバルには  
一万人、花火大会には二十万人以上の来場者だった。富士山と利根川、関宿城

を同時に撮れるスポットがあるところ。冬には富士見百景を撮影しようと河川敷に多くのカメラマンが集まる。町役場の前に水素ステーションがある。

他にも

- 映画のロケ地としてよく使われている。
- ふるさと納税額が県内1位である。
- 沖縄県国頭村、ホノルル、フィリピン、アルゼンチンと提携している。
- 昔の商店街は店がたくさんあったが後継者問題や少子高齢化の影響でほとんどの人が店を閉めてしまった。
- 祭りのある日でも最終バスの時間が21:30で困っている。
- 旅館やホテルが少ない。
- 町長が橋本町長に変わったおかげで色々改革されているので10年後、20年後の境町が楽しみである。
- 近年、周辺の町は人口が減少したが、境町の人口は増加している。
- 学校のエアコン設置率が100%である。

などのたくさんのお話を伺うことができた。

## 6. まちづくりワークショップ；”まちであそん”での成果報告

「まちであそん」とは、まちとアイデアとマラソンを組み合わせた造語で、高校生が「まちであそび」ながらまちに関わり、まちに対して何かを提案するプログラムである。今回は商店街を舞台に、3日間の合宿の中で「高校生の遊び場」をどうやったら作ることができるかを考えた。

日程	内容
8/17(金)	AM 境町へヒアリング、PM ガイダンス、まち歩き、BBQ、ワークショップ
8/18(土)	プロトタイピング、中間報告、フィールドワーク、プレゼン資料作成
8/19(日)	プレゼンリハーサル、最終発表会

麗大生はそれぞれの班に分かれ、高校生を柱に据えた活動をするように促し、大学生は補佐役として資料作成やアイデアの発案、アドバイザーとして活動した。各班の内容は以下の通りである。

- ① チームぶたにく（増田）：道の駅「さかい」の壁にインスタ映えする絵を描く。
- ② チーム・胸のナーチャリングは止められない！（新井）  
：室外機の風を利用しアイスを作ろう
- ③ チームタピオカ（高本）：特産品である「さしま茶」を利用したタピオカづくり
- ④ チームブルー（小林）：SNS映えする境町商店街をアップ。優れたものに特典を渡す。

## [各班の提案詳細]

### ① チームぶたにく (増田)

#### ■ 内容

- ・ 道の駅「さかい」の壁に写真撮影用の絵を描くことで、SNS 映えする写真を撮りに来てもらい、来街者増につなげられるのではないかと。

#### ■ まち関係者からの反応

- ・ 道の駅にインスタ映えスポット設置の案、大変面白く思う。
- ・ 道の駅だけでなく、いろんな場所に複数置く事も検討したい。
- ・ 誰が絵を描くのか、規模の大きさなど具体的に考えているのか。

#### ■ 気づいたこと・感想

- ・ はじめは予想よりも人が少なく、活気がなかったので戸惑った。
- ・ 人を呼び込むためにどうすれば良いか考え、納得のいくプレゼンができた。



### ② チーム・胸のナーチャリングは止められない！ (新井)

#### ■ 内容

- ・ 境町商店街で高校生が何かを食べたり飲んだりして談笑できる空間づくり。
- ・ 年齢層を問わず好まれるアイス製作を通じて、その時間を交流機会と捉えた。商店街のエアコンの室外機の風力で、アイスを作る。
- ・ 町の利益などは一度考えず、遊び心で考えてみる

#### ■ まち関係者からの反応

- ・ 試食を依頼した倉持議長は「美味しいです。」と笑顔で応えてくださった。
- ・ ブリコラージュという手法を用いて、アイス製造機を作成した斬新なアイデアに興味関心が沸いた。

#### ■ 気づいたこと・感想

- ・ 正直「現実的でない」と冷静な自分がいた。
- ・ 「遊び心」で考えてみるのはとても危険ではないかと考えていたが、楽しみながら境町を知れた。
- ・ アイスクリームは無事に作成成功。プロトタイプの際は難しい場面もあったが、無理せ



ず、ありのままを意識し、成功へと導き出せたことにやりがいを感じた。



### ③ チームタピオカ（高本）最優秀賞

#### ■ 内容

- ・ 地元密着型の菓子店『シンゲツ』さんの空きスペースを活用し、高校生の憩いの場に。
- ・ さしまっちゃタピオカを販売（若年層に人気で、地場産品を活かした新商品の提案）
- ・ 高校生プロデュースのケーキを作る。テスト週間割引など高校生特典を付ける。
- ・ 高校生が集まりやすいように、電源が確保でき、Free Wi-fi の設置（道の駅⇄商店街）
- ・ 空き家を活用し、高校生が自習や雑談をしたり、ワークショップを開いたりできるようにする。商店街一体がコミュニティのような、広域型公民“環”を形成。商店街は企業や出店したい人が目指す場所となることを期待。

#### ■ まち関係者からの反応

- ・ ぜひ「さしまっちゃタピオカ」を実現してほしい。
- ・ 「広域型公民“環”」という発想が良い
- ・ 早急に道の駅に Wi-fi を設置したいと思う 等

#### ■ 気づいたこと・感想

- ・ 現代人にとって、wi-fi とバッテリーが必要不可欠だと感じた。
- ・ 境高校生と慶応大生と活動し、多くのことを学べた。



広域 Wi-Fi  
エリア想定

### ④ チームブルー（小林）優秀賞

#### ■ 内容

- ・ 『River Town Sakaimachi (リバータウンさかいまち)』として、境町商店街にある SNS 映えスポットを紹介。撮影しに来てもらうことで、境町中高生に足を運んでもらう企画。
- ・ SNS 映えするキットの製作、SNS で「#境町選手権」の選手権を開催。高評価の上位者には境町の美容院やネイルサロンで利用できるチケットを特典として贈呈。今まで利用したことのないお店を利用し、かわいくなれる体験ができることで、境町から若者を流失することもなく、境町全体の経済効果の向上も見込める。

#### ■ まち関係者からの反応、

- ・ SNS 映えスポットは、境町に欲しいと思っていた。まさか、境町の商店街にあるとは思わなかった。
- ・ 特典が女性対象のものが多く、男性向けの特典を検討してみてもどうか。

#### ■ 気づいたこと・感想

- ・ 一見何もないように見える商店街でも、SNS 映えする場所があり、意外な発見があった。
- ・ 境高校生や慶応大生の方々とも協力し、自分を高めることができた。



## 7. まとめ -考察-

- ・ 学生間の予定が合わず、作業日程がタイトになってしまったことや、ヒアリングの前にさらに事前調査をして、ヒアリングでしか聞けないことを聞けるようにすべきであったと思う。
- ・ フィールドワークや情報収集によって、境町への興味関心が高まった。私たち大学生がまちづくりに関わるということは、自分たちの故郷を自分たちの居場所にする事ができるという魅力があると感じた。
- ・ 担当職員さんへのヒアリングや、大勢の前でのプレゼンなど人前で何か行うのが苦手な自分にとってすごく緊張していたのを覚えている。それでも、「せっかくの貴重な機会を活かさなければ」と自分を鼓舞して取り組み、そして自分たちが発見した課題の解決に向けて積極的に行動することの大切さを知りました。今まであらかじめ決められた段取りで授業を受ける機会がほとんどだったので、計画から実際に行うまでを自ら計画しおこなうのに戸惑ったが、班員と協力して乗り切ることができ、自分を一つレベルアップできたのではと感じている。



- 自分たちで考え、実行に移す体験は新鮮で、とてもやりがいを感じた。これからの大学生活をより豊かにするいいきっかけになったと思う。この経験を今後の自分の成長に活かせるよう、一層努力していきたい。
- 提案が実際に検討会にかけられ、実現に近いものがある。これからもいろんなことに挑戦していこうという気持ちを持つことができた。この地域連携実習に参加することができて本当に良かった。今後も境町に関わっていく機会を頂いたので、より境町に貢献したい。